

# 事項一一 独ソ中立条約問題

三三七 三月二十五日

在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛

イズヴェスチャ紙ノ質問ニ対スル独国議會各  
党領袖ノ意見報告ノ件

本第七五号

(四月二十六日接受)

大正十五年三月二十五日

在独

臨時代理大使 伊藤 述史(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

独露二重保障条約論ニ関スル件

前号拙信後段ニ関シ三月十七日「ケルニツシ」紙ニ現ハレ  
タル独露保障条約締結論ノ内容左ノ如シ

「イスヴィエスチャ」紙カ独逸議會各党領袖ニ対シ独露問  
題ニ関スル意見ヲ求メタルニ対シ各領袖挙リテ次ノ如ク露  
独条約締結論ヲ發表シタリト云フ

国粹党領袖「レフェントロフ」伯ハ国粹党ハ独逸カ国際連  
盟加入ニヨリ蒙ルヘキ犠牲ノ代償ヲ得ルコト断シテ無カル

国権党ハ断乎トシテ独逸ヲシテ西欧諸国ノ對露敵對同盟ニ  
参加セシメサルニ腐心スヘク從テ独逸カ将来ニ於テモ亦東  
西中間ノ現地位ヲ保持シ同時ニ東方即チ露国ニ対シ特別ノ  
親善關係ヲ維持スルニ努力セムトス要之國権党ハ「ロカル  
ノ」条約ノ効果ヲ補充スル為之ト平行シテ對等ノ効力ヲ有  
スル独露条約ヲ締結セムト欲スルモノナリト述ヘタリ  
国民党代表「シヨルツ」ハ独逸ノ連盟加入ヲ独逸外交ニ新  
紀元ヲ劃スルモノトシ之ニヨリ連盟内ニ新國際關係ヲ發生  
セシメ例ヘハ独逸カ英國ニ加担シ仏國ニ對抗シ得ルカ如シ  
ト為シ嘗テ「ピスマルク」ノ露國ト締結シタル二重保障条  
約ハ欧州平和擁護最善ノ武器ナリシニ鑑ミ今日此種二重保  
障条約ヲ締結スルコト一層必要ナリトシ同時ニ之ニヨリ独  
逸カ英露ノ中何レカ一方ニ与スルヲ必要トセサル所以ヲ最  
有効ニ保証スルヲ得ヘシト述ヘタリ  
「ランジベルグ」ハ社会民主党ヲ代表シテ同様ノ意見ヲ述  
ヘ共產党ノ回答亦モトヨリ之ヲ肯定セリ民主党及中央党ノ  
態度亦周知ノ事項ニ屬ス

露國側確カナル筋ヨリ聞知スル所ニ抛レハ前記国民党領袖  
ノ意見ハ其ノ率直ニ西方關係ヲ論セルト將又同党ノ勢力ニ

ヘク依リテ独逸政府ニシテ真ニ行動ノ自由ヲ保障セムト欲  
セハ就中露國ト保障条約ヲ締結スルニ如カス独逸ニシテ此  
種保障条約締結後連盟ニ加入センカ連盟内ニ於ケル独逸ノ  
威望頓ニ加ハルヘク從テ全独逸國民挙リテ露國トノ親善提  
携ヲ希望スト声明セリ

次ニ國権党代表トシテ「ヘツチ」(Hoersch)教授ハ一層徹  
底的ニ右同断ノ意見ヲ發表シタルカ同人ハ國権党ハ常ニ独  
逸ノ連盟加入ニ反對シタリトノ前提ヨリ出発シ即チ同党ハ  
政府ノ規約十六條ニ對スル解釈カ嘗テ連盟自身ニヨリ公認  
セラレタルコト無キニ鑑ミ益々政府ノ解釈ニ満足スル能ハ  
ス政府ノ解釈ハ寧ロ二三大国ノ解釈ニ基クモノナリ吾人ハ  
独逸カ連盟加入ニヨリ自國利益擁護ノ為全力ヲ尽シテ余力  
ヲ残ササルモノト期待セサルヘカラス即チ独逸ハ少數民族  
及被压制國民ヲ代表セサルヘカラスノミナラス場合ニヨ  
リテハ連盟内ニ於テ連盟外ニ在ル「ソヴィエト」露國ノ代表  
ヲモ勤メサルヘカラスルヘシ独逸ノ連盟加入ハ独逸ヲシテ  
國際平等權獲得ヲ絶望的ニ困難ナラシムル第一歩ナリ独逸

ヨリ「ストレーゼマン」ノ東方政策ヲ確立セシムルニ至ル  
ヘシトノ期待ト相俟テ露國側ニ特別深甚ノ印象ヲ与ヘタリ  
ト云フ又莫斯科ノ輿論ハ独露政治条約締結論ヲ全然好感ヲ  
以テ迎ヘ尚又「ゼネバ」連盟會議ノ結果ハ独逸ノ西方諸國  
ニ對スル關係ノミナラス寧ロ其ノ東方即チ對露關係ノ真相  
ヲ明白ナラシムヘク露國ハ「ロカルノ」条約顧慮ノ為行動  
ノ自由ヲ束縛セラレタル独逸トシテ頗ル疑問ナルモ此種独  
露保障条約ノ締結ヲ提議シ来ルコトアリトセハ進シテ商議  
ニ応スルノ意向ヲ有スル趣ナリ

(参考) 國際連盟規約第十六條及第十七條

## 第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰  
争ニ訴ヘタル連盟國ハ当然他ノ總テノ連盟國ニ對シ戰爭行  
為ヲ為シタルモノト看做ス他ノ總テノ連盟國ハ之ニ對シ直  
ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ断絶シ自國民ト違約國  
民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且連盟國タルト否トヲ問ハス他  
ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商  
上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

連盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ連盟ノ約束擁護ノ為使用ス

ヘキ兵力ニ対スル連盟各国ノ陸海又ハ空軍ノ分担程度ヲ開  
係各国政府ニ提案スルノ義務アルモノトス  
連盟国ハ本条ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合  
ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムルヲ為相互ニ支  
持スヘキコト、連盟ノ一国ニ対スル違約国ノ特殊ノ措置ヲ  
抗拒スルヲ為相互ニ支持スヘキコト並連盟ノ約束擁護ノ為協  
力スル連盟国軍隊ノ版図内通過ニ付必要ナル処置ヲ執ルヘ  
キコトヲ約ス  
連盟ノ約束ニ違反シタル連盟国ニ付テハ連盟理事会ニ代表  
セラルル他ノ一切ノ連盟国代表者ノ連盟理事会ニ於ケル一  
致ノ表決ヲ以テ連盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ声明スルコトヲ  
得

第十七条

連盟国ト非連盟国トノ間又ハ非連盟国相互ノ間ニ紛争ヲ生  
シタルトキハ此ノ種紛争解決ノ為連盟国ノ負フヘキ義務ヲ  
該非連盟国カ連盟理事会ノ正当ト認ムル条件ヲ以テ受諾ス  
ルコトヲ之ニ勧誘スヘシ勧誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ  
第十二条乃至第十六条ノ規定ハ連盟理事会ニ於テ必要ト認  
ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勧誘ヲ為シタルトキハ連盟理事会ハ直ニ紛争事情ノ  
審査ヲ開始シ当該事情ノ下ニ於テ最善且最有効ト認ムル行  
動ヲ勧告スヘシ  
勧誘ヲ受ケタル国カ此ノ種紛争解決ノ為連盟国ノ負フヘキ  
義務ノ受諾ヲ拒ミ連盟国ニ対シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ  
第十六条ノ規定ハ該行動ヲ執ル国ニ之ヲ適用ス  
勧誘ヲ受ケタル紛争当事国ノ雙方カ此ノ種紛争解決ノ為連  
盟国ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ連盟理事會  
ハ敵対行為ヲ防止シ紛争ヲ解決スヘキ措置及勧告ヲ為スコ  
トヲ得

三三八 四月十六日

在仏国石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ協約締結説ニ關スル仏国各紙論評ノ件

第一二九号

(四月十七日接受)

独露協約締結説ニ關シ当地新聞ハ外務省モ其ノ經過ヲ知悉  
シ居リ公然ノ事實ナルモ原文ヲ見サル中ハ是非ノ論ヲ下シ  
得ストテ留保ノ態度ヲ執ルモノ多キ処 Temps ハ独逸カ  
「ロカルノ」協約ニ深入リシツツアル今日露国ト同盟条約  
様ノモノヲ締結スル事ハ不可能ナルヘク旁々本協約ハ空漠

且ツ局限的ノモノナルヘシトナシ Quotidien ハ本協約ハ  
独露間ノ「ロカルノ」協約トモ目シ得ヘク内容自体ハ「ロ  
カルニスト」ニトリ何等異議ナカルヘキモ只寿府會議失敗  
シ且ツ軍縮予備會議ニ露国カ参加ヲ拒絶シタル今日其ノ締  
結ヲ見ルハ無稽ニ非スト論シ Echo de Paris ハ独逸ノ「ロ  
カルノ」協約参加ハ要スルニ平素ノ野心ヲ遂行スルニ便ナ  
ルト思惟セルニ依ルモノニテ今回ノ独露協約モ亦同様ノ目  
的ニ出ス又露国ヨリスレハ先ノ露土協約ト同様本協約ハ  
「ロカルノ」協約ニ對抗セントスル一段階ニ他ナラス故ニ  
仏国ハ速ニ中欧諸国トノ条約ヲ締結スル事肝要ナリト論ス  
在歐各大使、波、智、羅公使へ郵報セリ

三三九 四月十六日

在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ノ独国新聞論評ニ關シ同国外務省第

四部長ノ談話報告ノ件

第三四号

(四月十七日接受)

寿府總會後露独間新タニ何等カ政治的交渉行ハル可キ事ハ  
拙信第七四号波蘭公使ノ所説ヲ始メ英仏大使等ノ等シク予  
想セル処ナリシニ不拘拙信第七五号「ケルニツシェ」紙ノ

報道等ヲ除キ独逸新聞ハ何故カ沈黙ヲ守リ居リシ処十四日  
ノ「タイムス」カ露独再保障条約ノ締結近キニアル事並右  
ニ關シ独逸政府ヨリ英仏伊政府ニ通告スル処有リタル旨ノ  
伯林通信ヲ掲クルニ及ヒ当国新聞ハ今更ノ如ク本問題ノ論  
評ニ紙面ヲ賑ハシ居レリ

右ニ關シ独逸外務省第四部長ノ語ル処ニ依レハ露国ハ夙ニ  
独逸ノ「ロカルノ」条約締結並連盟加入ヲ以テ露国ヲ孤立  
セシムルモノトシテ頻リニ之ヲ氣ニ病ミ居ルカ西欧諸国  
トノ間ニ解決ス可キ幾多ノ重要問題ヲ控フル独逸トシテハ  
西欧諸国トノ諒解政策ハ已ムヲ得サル処ナルト共ニ此ノ政  
策ハ決シテ独逸カ露国ヲ棄テテ露国包围政策ニ加ハルモノ  
ニ非サル事幾度カ釈明シ保障セルニモ不拘露国ハ之ニ安ン  
セス頃日独逸ニ対シ最近締結セラレタル希土条約ニ倣ヒ中  
立条約ノ締結方申出テタルカ独逸既ニ連盟加入ヲ決定シ居  
ル今日如何ナル場合ニモ独逸中立ヲ守ル可シトノ約束ハ連  
盟規約第一六条ノ關係上到底之ヲ為シ得サルモ独逸カ從來  
他ノ諸国ト締結セルト同様ノ仲裁調停条約ナレハ之ヲ結フ  
可キ事並独逸ノ連盟加入ハ反露の意味ヲ有スルモノニ非ス  
從テ經濟上ノ露独提携ニハ異議無キ旨ヲ以テ之ニ応酬セル

ニ露国ハ排露傾向ノ国カ仲裁国ニ選ハルル事有ルヲ懸念シ居ルカ為未タ何等ノ協定ニ達シ居ラスノ如キ次第ニテ協定ノ内容ハ未タ確定セサルモ諒解成立ノ上ハ「ラパロ」条約ノ連続トシテ之ヲ条約ノ形式ヲ以テ規定スルヲ可トスヘシトノ話合タケハ出来居レリ又条約成立セハ之ヲ連盟事務局ニ登録スル事勿論ニシテ英仏政府ノ内報モ右ノ程度ノモノニ過キスト云フ

英、仏、伊、白、露ニ転電セリ

三四〇 四月十七日 在仏国石井大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ニ対スル仏国側ノ二様ノ見解報告ノ件 第一三三号 (四月十八日接受)

独露協約問題ニ関シ情報ニ依レハ仏外務省ニテハ本協約ハ近ク成立スヘシト觀察シ居ル処其影響ニ付テハ「ブリアン」一派ハ「ロカルノ」協約ノ手前モアリ輕視セントシ居ルニ反シ「ベルトロウ」一派ハ之ヲ重大視シ独逸ハ此ノ武器ヲ用ヒテ仏国ニ「ブレッツシオン」ヲ加ヘ先第一ニ「ライン」占領軍減員ヲ要求スヘク之ヲ抑制スル為ニモ懸案中ナル羅馬尼及「セルビヤ」トノ政治条約ヲ速ニ締結スヘシト主張

シ居ル趣ナリ尚独逸カ本協約ヲ締結セントスルニ至レル主因ハ露国側カ債券ヲ以テ独逸ノ資本家ヲ釣リ居ルカ為ナリト伝ヘラル

在歐各大使、波蘭、チェコ、羅馬尼ニ暗送セリ

三四一 四月二十一日 在独国伊藤臨時代理大使ヨリ 幣原外務大臣宛

独ソ新条約締結説及ビ各派新聞論調報告ノ件 本第一〇三号 (五月二十七日接受)

大正十五年四月二十一日 在独

臨時代理大使 伊藤 述史(印) 外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

独露新条約締結説及各派新聞論調ニ関スル件 独逸カ「ロカルノ」条約ト平行シ露国トノ間ニモ何等カノ政治的了解ヲ遂クヘシトハ夙ニ予測セラレタル所ナルモ独逸新聞中「ケルニツシ」紙カ僅ニ兩三次所謂独露再保障問題ニ関シ露国方面ヨリノ情報ヲ伝ヘタルノミナリキ然ルニ四月十四日倫敦「タイムズ」ノ露独間ニ「ラパロ」条約ヲ「ロカルノ」条約ニ適合セシムル一種ノ再保障条約將ニ成

立セムトシ独逸政府ハ最近之ヲ英仏伊政府ニ通知シタリトノ報道当地ニ伝ハルヤ政府ハ始メテ本件交渉ノ經過ヲ新聞記者其ノ他各界関係者ニ漏ラシ且右条約ハ「ラパロ」条約ノ連続ニシテ格別目新シキモノニ非サルヲ弁明シタルモノノ如ク独逸新聞ハ聊カ不意打ニ遇ヒタル形ナリシカ政府系ハ固ヨリ左右両系共ニ本条約ノ内容ニ対シテハ其ノ判明ニ至ル迄批判ヲ留保シ各派独自ノ親露論ヨリ夫々主義上ノ新条約歡迎論ヲ唱ヘタリ唯独リ社会民主党「フオールエルツ」ハ後述ノ如ク政府ノ秘密主義ヲ非難シ且本条約カ露国ノ圧迫ニヨルモノナラハ寧ロ之ヲ捨テテ「ロカルノ」ノミヲ取ルヘシト一種ノ条件付賛成論ヲ唱ヘタリ 今各派新聞ノ論旨ヲ闡明スルニ先チ本件交渉ノ經過及内容ニ関スル各方面ノ情報ヲ綜合スルニ左ノ如シ (一)一九二四年十二月頃露国側ヨリ「ラパロ」条約ノ連続トシテ新政治条約締結ヲ提議シ独逸側ノ同意ヲ得爾來商議ハ西方保障問題ト雁行継続セラレ就中客年十月「チチエリ」來伯ノ際重ネテ極メテ広汎ナル政治条約締結ヲ提議シ同時ニ独逸ニシテ西方ヲ断念シ露国ト結フニ非サレハ先ツ波蘭ト握手スヘシト威嚇スル等百方独逸政府説伏ニ努メ一

方「ストレーゼマン」ハ「ロカルノ」會議ヲ扣エタル矢先聊カ当惑シタルモ之カ商議ヲ後日ニ譲リ度キ旨可然挨拶シタルハ公然ノ秘密ナリ其後本年一月親露派ノ巨頭「プロックドルフ・ランツァウ」伯ノ莫斯科帰任以來商議ハ同地ヲ中心トシテ再燃シ露国ハ「ロカルノ」条約確定ノ今日独逸ヲ西方連盟ヨリ寢返リヲ打タシムルヲ断念シタルモ依然トシテ露土条約類似ノ一般ノ中立条約締結ノ希望ヲ棄テス然レトモ独逸トシテハ露国カ侵略国タル場合迄尚中立ヲ約束スルカ如キハ「ロカルノ」及連盟ノ手前到底之ヲ許サス結局露国カ被侵略国タル場合ニノミ中立ヲ維持シ侵略国タル場合ニハ全然行動ノ自由ヲ留保スル程度ノ制限ノ中立乃至仲裁条約ニ止ムルノ外無ク從テ兩國交渉ハ最大ナル本点ニ停頓シ居ルモノノ如シ但其ノ他ノ事項ニ付テハ兩者ノ立場著シク歩ミ寄りタル結果独逸政府ハ「ラパロ」當時ノ誤解ヲ避クル為露国側ト打合ノ上復活祭數日前英仏伊米四國政府ニ対シ本件交渉ノ經過ヲ通報スルノ措置ニ出テタルモノノ如シ

(二)本条約ノ目的ニ関シ(イ)露国ハ其ノ当否如何ヲ問ハス連盟ヲ以テ英国等二三戰勝強國ノ戰敗國及「ソヴィエット」露

国窘迫ノ機關ト信シ殊ニ英国労働党内閣ノ瓦解後特ニ恐英病ヲ募ラシメ益々隣接諸国ト各別ニ中立条約ヲ締結シ結局一大条約系統ヲ完成シ以テ英国連盟政策ヲ中和スルノ苦肉策ニ出テ問題ノ独露条約亦該計画ノ一部ナリト伝ヘラルル(四) 將又独逸側ハ「ロカルノ」条約ニ依リテ西境ノ安全ヲ保障セラレタルモ東隣ニ強大ナル軍備国露国ヲ扣ヘ一旦緩急ノ場合連盟ノ援助特ニ難ク露国トノ間ニ東境ノ保障ヲ約スルコト絶対ニ必要ナリ加之露国トハ地理上歴史上政治上経済的関係密接ニシテ客年独露通商条約ニヨリ兩國経済関係ノ基礎確立ニ伴ヒ政治的ニモ「ラパロ」以上ノ了解ヲ遂クルノ必要感セラレタル当然ノ帰結ナリト説クモ固ヨリ対外上幾分連盟国ヲ牽制シテ連盟加入ノ際独逸ノ立場ヲ有利ナラシメ他方右党カ現在ノ共產露国ヲ好マサルニ拘ラス尚且「ヴェルサイユ」条約ノ圧迫負担逃避ノ非常手段トシテ連盟即チ旧敵国ト妥協スルヨリモ寧ろ露国ト提携スヘシトノ持論ナルト將又後出「フランクフルテル」紙ノ暗示シタルカ如ク現政府部内ニモ国民党ノ如ク極メテ国権党ニ近似スル分子ヲ含ムニ鑑ミ旁「フオールエルツ」「ゲルマニヤ」及英紙「デイリー・テリグラフ」ノ揣摩シタル通本件独露交渉

分ナリト政府ヲ弁護セリ尚左ニ各派別新聞論調ヲ一瞥スヘシ  
甲「ロカルノ」派

一、政府党中国国民党系「テークリッヒ・ルンドシヤウ」(四月十五日)ハ現外相ノ御用紙トシテ英紙ノ本件報道ヲ其ノ悪意ニ將又本件商議ノ進捗ヲ寿府會議ノ決裂ニ帰スルハ二ツナカラ謬妄ナリト対外的ニ弁明シ独逸政府ノ東西同時親善政策ハ「ロカルノ」法案上程ノ際宰相ノ切言シタル通ニシテ且又「ロカルノ」ニ於テモ西方保障条約ノ締結ニヨリ毛頭独露關係ヲ阻害スルノ意思無キヲ言明シ了解ヲ得タル結果第十六条ニ關スル關係各国ノ声明トナリタルニ顧ミ本件独露交渉ニヨリ「ロカルノ」及連盟政策ニ対スル独逸政府ノ誠意ニ容疑ノ余地無キモノナリト強調シ次ニ同系「ケルニツシ」紙(四月十六日)及「ドイッチェ・アルゲマイネ」紙(同十五日)ハ何レモ政府部内右翼ヲ代表シ独露条約ヲ締結セムトスル独露ノ立場ヲ肯定シ殊ニ露国ノ境遇ニ同情スルカ如キ口吻ヲ漏ラシ尚後者ハ「ラパロ」条約ヲ補足シテ「ロカルノ」条約ト調和セシムルハ「ロカルノ」条約成立後独逸国民一般ノ懷抱セル自然的感情ニシテ

ハ内政上政府ノ右党懷柔策トシテ重大ナル意義ヲ有スルモノトモ想像セラレ  
次ニ独逸新聞ハ恐ラク政府ノ意ヲ承ケテカ一斉ニ本条約カ未タ成立ノ域ニ達セス内容亦「ロカルノ」条約ニ対スル再保障条約ノ如キ意義ヲ有スルモノニ非サルノ二点ニ於テ「タイムズ」ノ報道ハ尠クトモ「ミスリーディング」ナリト駁シ往々一步ヲ進メテ該報道ハ露独ヲ離間シ独逸ヲシテ専ラ「ロカルノ」ニ執着セシメムトスル故意ニ出テタルモノナリト非議スルモノ無キニ非ス將又本件報道ニ伴フ一部連盟国殊ニ仏国側新聞ノ激昂ニ対シ露国及連盟国間中立条約ノ締結ハ一九二二年露智条約等先例不尠ナルノミナラス一方反露ノミナラス反独ヲ目的トストノ噂スラアル羅波条約ノ更新セラレ仏波兩國亦露土其他ト中立条約締結ノ商議ヲ進メツツアリトノ風説アリ近クハ又波蘭ニ於ケル「ボル・ボンクール」ノ排独演説等仏國ノ排独運動愈々露骨ヲ加ヘ来リタルニ鑑ミ仏國波蘭側コソ「ロカルノ」精神没却ノ責ヲ負フヘキナリト逆襲シ尚政府党新聞ハ独逸政府カ本件商議ノ經過ヲ關係各国ニ通報シタルヲ以テ「ラパロ」當時ノ驚愕ヲ招クノ謂ハレ無ク戦前秘密外交ノ弊害ヲ矯ムルニ十

加之独逸ハ之ヨリ自國ヲ利スルノミナラス又実ニ露國ト歐洲諸國トノ反目ヲ減シ兩者ノ仲介橋渡シタルヲ得ヘシト説ケリ

中央党「ゲルマニヤ」(四月十五日)ハ独露新条約ハ露國ノ發議ニ係リ独逸ハ常ニ受身ナルコト自体既ニ独逸ニ禍心無キヲ語ルモノナリト弁シ又英國ニ於テスラ露國ヲ永ク歐洲ヨリ隔離セシメサルハ啻ニ独逸ノミナラス亦実ニ英國自体ノ利益ニシテ而モ歐洲ト露國トノ橋渡シトシテ独逸以上ノ適任者無シト唱フル有力者ヲ生スルニ至レリト説キ若シ夫レ独逸政府ノ本件商議通告カ時機ヲ得ストノ非難ニ至リテハ相手方露國ノ希望モアルニ付独逸一個ノ自由ニ任セサルニ非サヤト恰モ本件通告亦露國側ノ希望ニ出タルカ如キ意ヲ仄カセリ  
次ニ民主党「ベルゼン・クーリエ」及「ベルリーナー・ターゲブラット」(各四月十五日)ハ「タイムズ」ノ警鐘ハ尠クトモ高等政策ニ出テタルモノニ非スト非議シ尙「テオドル・ユルフ」ハ後者(同十八日)ニ於テ寿府會議挫折ノ創痍未タ癒エス將又「チチェリン」カ連盟ニ対シ未曾有ノ非友誼的の回答ヲ送レル際恰モ独露交渉ノ暴露セラレタルハ

独逸連盟政策ノ前途ニ暗影ヲ投スルモノナリト為スハ一理無キニ非サルモ抑々本商議カ一九二四年來ノ懸案ニ係リ右等偶発事件ト何等因果關係アルニ非サルコト亦推知スルニ難カラスト政府ノ弁明ニ裏書シ何レニセヨ欧州諸國カ暗黙ノ間ニ露國隔離ノ過誤ナルヲ悟ルノ余儀ナキニ至レル事実ハ拒ム能ハスト指摘セリ更ニ民主系中最熱心ナル「ロカルノ」政策支持者タル「フランクフルテル」紙ハ本条約ハ成立ノ曉連盟事務局ニ登記セラルヘク從テ問題ノ中立條款ノ如キモ連盟規約殊ニ第十六条ニ背反セサル範圍内ニ於テ始メテ有効ナルモノナルニ付外國側疑惑ハ畢竟杞憂ニ過キスト駁シ寿府蹉跌後殊ニ活発ヲ加ヘ來レル國權黨ノ西方分離露國結合ノ主張ハ此際偶々外國反獨派ノ運動ニ油ヲ注キタルノミナラス独逸國民亦寿府會議蹉跌ニ失望シタルコト亦事實ナルモ今日「ロカルノ」ヲ棄テテ露國ニ趨クカ如キハ狂乱ノ沙汰ナリ独逸ハ「ロカルノ」及露國ノ兩者ヲ平等ニ必要トスルモノニシテ「ロカルノ」カ直ニ東方ヲ捨テ西方ヲ取ルヲ意味セサルト同様露獨新条約亦斷シテ西方ヲ離レテ東方ニ合スルモノト解ス可カラスト國權黨ヲ難詰シ更ニ政府部内ニモ國權黨ニ秋波ヲ送ルモノアリト警告セリ

二、社会民主党機關紙「フオーレルツ」ハ四月十五日及十八日ノ兩日ニ亘リ「ロカルノ」ハ「ゼネバ」ノ上ニ在リ連盟亡フトモ「ロカルノ」亡ヒストノ連盟論者タルト同時ニ一層熱烈ナル「ロカルノ」主義非共產主義的見地ヨリ「チチェリン」ノ連盟反対ハ所詮連盟ヲ旧露帝國主義ト同工異曲ノ世界革命計画實現ノ障礙ト目スル以外他ニ事由無キモノナリ独逸労働者ハ自己ノ生存維持カ英露帝國主義ノ軋轢若クハ支那ニ於ケル世界革命運動ヨリモ重大ナルヲ自覺シ須ク独逸和睦ノ「ロカルノ」平和政策ニ歸依スヘシト「チチェリン」外交ヲ猛撃スル傍ラ共產黨ノ社会民主党労働者誘致ニ備ヘ更ニ「ロカルノ」ノ為メニ「ラパロ」ヲ棄ツヘカラサルハ勿論ナリト雖若シ「チチェリン」ニシテ飽ク迄國際連盟即チ独逸及世界社会民主主義者ノ外交政策ニ挑戦シ独逸ヲシテ「ラパロ」「ロカルノ」ノ中何レカ一方ヲ強制的ニ選択セシメムト欲スルニ於テハ我党ハ寧ロ「ロカルノ」ヲ採ルヘシト宣明シ尙政府カ本件交渉ヲ自國民ニ蔽秘シタル為議會外交委員スラ纔ニ外國外交官ノ暗示ニヨリ露獨ノ間ニ何等カノ交渉行ハルルヲ臆測シ居タルニ止マリ況ヤ一般公衆ニ至リテハ今般外國側報道ニヨリ始メテ之シテ最頑強ナル連盟反對論者トシテ知ラレタル「ドイッチエ・ターゲスツァイトング」(四月十五日)ハ明ニ本件露獨條約歡迎論ヲ唱ヘ本交渉ノ難關ト稱セラルル中立条項ニ関シ連盟カ露國ヲ侵略者ト看做シタル場合尙独逸ハ傍觀シ得ヘシトノ政府ノ解釈ニシテ真ナラハ独逸ハ露國ニ之カ保障ヲ与ヘ得ヘキ道理ナルニ非スヤ此点反対党ノ疑惑ヲ解クコト政府自身ノ為ニモ利益ナルヘシト誘ヒ政府ノ「ロカルノ」執着ニヨリ將又露國ノ現状ヨリ再保障條約ノ如キハ到底望ミ得サル所ナルモ尠クトモ第十六条ニ関スル「ロカルノ」諸國ノ聲明ノ曖昧ヨリ生スヘキ独逸ノ連盟對露國戰爭卷添ヲ困難ナラシムル点ニ於テ本件交渉ハ既ニ吾人ノ歡迎ニ値スト述ヘ更ニ寿府會議後「ロカルノ」政策破綻ノ兆候愈々顕ハレハ波疎隔獨仏親善ノ如キハ痴人ノ夢ニ過キス独逸ハ既ニ異常ノ努力ニヨリ能ク仏國ノ強圧ニ堪ヘテ「ヴェルサイユ」條約ノ桎梏内ニ尙小康ヲ得タルモ之レ以上ノ圧迫ハ到底忍ビ難キ所ナリ独逸ハ早晚針路ヲ東方ニ転スルノ余儀ナキニ至ルヘシト吾人ノ主張漸ク朝野ニ認メラルルノ第一歩トシテ本件條約成立ノ近キヲ慶賀セサルヲ得スト結ヒタリ尙國權覺極右派乃至國料黨ノ意見ヲ代表シ最頑強ナ

ヲ承知スルノ失態ヲ演セリ殊ニ本件交渉ノ内容亦何等公表セラレサルハ徒ニ内外ノ揣摩臆測ヲ逞クシ政争ノ資ヲ添フルノ結果ニ終ルヘシト政府ノ秘密主義ヲ難詰セリ

乙「ロカルノ」反対派

一、國權黨多數派「クロイツ」紙及「ロカール・アンツァイガー」(各四月十五日)ハ戰敗國タル独逸ハ露國ト結ヒテ「ヴェルサイユ」條約ノ束縛ヲ免ルヘシトノ同黨年來ノ持論ニ基キ政府ハ東西何レニモ偏セスト揚言スルモ其ノ實西方政策ニ傾クモノニシテ軟弱ナル平和論者タル「ルーター」「ストレーゼマン」ニ對シ波瀾小協商國等ノ反獨運動ニ對抗シテ「ラパロ」條約ヲ再保障條約ニ改ムルカ如キ冒險的行為ヲ期待スルハ尙木ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類ナリト論シ結局政府ノ不徹底ナルニ股政策ハ独逸カ「ロカルノ」以前ニ於テスラ兎モ角維持シ得タル行動ノ自由ヲ喪失シ一方露國ヨリ十分ノ友誼的援助ヲ期待シ得サルノミナラス他方仏波諸國ノ反獨運動ヲ煽揚シ占領線線上ヲ愈々難澁ナラシムヘシト詭弁シタルカ之レ裏面竊ニ快哉ヲ叫ビツツ尙現政府反對ノ第一党タル從來ノ行掛上反對センカ為ノ反対論ヲ試ミタルノ嫌無キニ非ス即チ同様國權黨ノ農民地主派ニ

ル「ストレーゼマン」及「ロカルノ」反對者トシテ知ラテタル「ドイッチェ・ツァイトング」ハ第十六条ニ関スル外相ノ解釈妥当ナリトセハ独逸ハ露国ト中立及再保障条約ヲ締結シ得ル道理ナリ然ルニ英仏輿論ハ本件交渉ニ対シ真綿ニ針ノ態度ヲ示シ殊ニ英国政府ハ本件交渉ニ於テ無制限中立ハ論議ノ余地無シト声明シタル処果シテ然リトセハ連盟加入後独逸ハ場合ニヨリテ(1)連盟国ニ通過権ヲ認め(2)連盟理事會其他ノ決定スルコトアルヘキ武力制裁ニ参加スルノ義務ヲ負フモノナリヤ或ハ政府解釈ノ如ク真ニ自己ノ自由裁量ニヨリ之ヲ決定シ得ヘキ保証ヲ取付ケタリヤ此点政府ノ明答ヲ望ムト追求セリ

二、最後ニ共產党機關紙「ローテ・ファーン」ハ連盟カ真ニ平和ヲ保障シ何等反露の禍心ヲ包蔵スルニ非サレハ独逸ハ露国ト一般無制限ノ中立条約ヲ締結シ得ヘキ道理ナリト國權党ト同旨異曲ノ筆法ヲ用ヒタル後「ブルジョア」独逸ハ一面「ロカルノ」國ニ款ヲ通スル傍ラ帝國主義資本主義の復興ノ方便トシテ勞農露國接近ヲ企ツルニ外ナラス然レトモ「ブルジョア」政府カ微温のニセヨ勞農露國ニ接近ヲ余儀無クセラレタルコト其レ自体既ニ英国帝國主義ノ敗北

在歐各大使へ暗送セリ

三四三 四月二十三日 在英国松井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛

独ソ新条約ニ対スル英国政府意見ニ関シ議會  
ニ於ケル質疑応答報告ノ件

公第二二八号

(五月二十七日接受)

大正十五年四月二十三日

在英

特命全權大使男爵 松井 慶四郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露国新条約ニ対スル英国政府意見ニ関シ議會

ニ於ケル質問応答報告ノ件

往電第六二二号ニ関シ

四月二十一日当国下院ニ於テ「ポンソンビー」氏カ目下協議中ノ露独新条約ニ関シ英国政府ハ其意見ヲ普通ノ外交手段ニ依リ他ノ「ロカルノ」条約締結國ニ通知シタリヤ又其意見ナルモノハ如何ト質問シタルニ対シ英外相ハ右第一点ニ対シテハ然リト答ヘ第二点ニ対シテハ本条約ハ未ダ締結セラレ居ラスト了解スルコト同条約ノ条項ノ正文ハ之ヲ見

ヲ語リ世界勞働階級勢力ノ増大ヲ意味スルニ於テ本件獨露条約商議ハ其ノ意義頗ル重大ナリト述ヘタルモ畢竟「ブルジョア」政府ノ政策ハ戰爭政策ニ平和ノ仮面ヲ被セタルニ過キサルカ故ニ真正ノ獨露親善ハ「プロレタリア」独逸ニヨリテノミ達セラルヘク吾人ハ須ク社会民主黨勞働者ヲ与党トシテ本目的遂行ニ努力セサルヘカラスト結ヒタリ

三四二 四月二十三日 在英国松井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ニ関シ英外相チェンバレン談話ノ件  
第七〇号 (四月二十五日接受)

往電第六七号会谈後露独条約ノコトヲ尋ネタルニ外相ハ右ニ付テハ独逸政府ヨリ其ノ「ロカルノ」条約及連盟規約ニ反セストノ証言ヲ得置ケリ本文ハ見サルモ之レ以上ニ立チ入ル筋モナク又抗議ノ必要モナシト考ヘ居レリ併シ波蘭「チエコ」等ノ隣接小國ハ心配シ居レリ之ハ無理モナキカハハ初メ独逸ノ証言ニテ安心シ居リシカ近頃再ヒ心配シ出シタルカ如シ尚ホ「チチェリン」等ハ頻リニ英ノ露包圍策ヲ云々シ居ルモ右ハ露ノ宣伝ニシテ英ニ然ル考ナシト語レ

サルモ独逸政府ハ同条約カ國際連盟規約若ハ「ロカルノ」諸条約ト何等抵触スル処ナキ旨ノ「アシシュアランス」ヲ与ヘタリ右事実ニ顧ミ之ニ反對スル理由ナシト考フル旨答弁セリ詳細ハ別添議事録写ニヨリ御承知相成度シ右報告申進ス

本信写送付先 独、仏、露、白、伊、智、波  
(別紙)

GERMANY AND RUSSIA (PROPOSED TREATY).

MR. PONSONBY asked the Secretary of State for Foreign Affairs whether the views of His Majesty's Government on the proposed treaty between Germany and the Soviet Union have been communicated to the other signatories of the Locarno Treaties through the usual diplomatic channels; and whether this House will be informed as to what those views are?

SIR A. CHAMBERLAIN: The answer to the first part of the question is in the affirmative. I understand that the Treaty has not yet been concluded,

and I have not seen the text of any of the Articles, but the German Government have given assurances that the Treaty will contain nothing that conflicts with the Covenant of the League or with the Locarno Agreements. Accepting these assurances, and assuming that the final text of the Treaty completely fulfils them, I see no reason to take exception to it.

OFFICIAL REPORT  
PARLIAMENTARY DEBATES  
HOUSE OF COMMONS

Vol. 194, No. 50

Wednesday, 21st April, 1926.

三四四 四月二十六日 在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ノ調印ニツキ報告ノ件

第三七号 (四月二十七日接受)

往電第三四号ニ関シ

シテ社会党ハ独逸ノ連盟加入及ヒ「ロカルノ」条約実施ヲ条件トシテ賛成スト為シ

三、共產党「レーテファーン」ハ真正ノ独露親善ハ「プロレタリア」独逸トノ間ニノミ成立スヘキモノナルカ尚過渡的措置トシテ「ブルジョア」独逸トモ親善ナラントスル露国ノ平和的努力ニ免シテ賛成スト論ス

在欧州各大使へ郵報セリ

三四六 四月二十八日 在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ノ独国議會ニ於ケル討議報告ノ件

第四一号 (四月二十九日接受)

(一)露独条約ハ二十六日參議院ニ付議セラレタルカ「バイエルン」首相「ヘルト」カ反対ノ意ヲ表明セルニ止マリ他ハ皆賛成セリ(外務次官ノ談ニ依ルニ同氏ハ「ロカルノ」条約ノ際政府ノ外交政策ニ対シ積極的ニ賛成シタル人ニシテ今回ノ反対ハ多分党派関係ニ基クモノナルヘク重視スルニ足ラスト)依テ同条約ハ同日直ニ議會外交委員會ニ付議セラレタル処各党派各々理由ハ異レトモ例外無ク之ニ賛意ヲ表セリ斯ノ如キハ独逸議會ニテハ極メテ珍ラシキコトナル

其後露独間ノ交渉頗ル早ク進捗シ二十四日当地ニ於テ調印<sup>三三</sup>ルニ至レリ本条約ハ四ヶ条ヨリ成リ付屬交換公文ト共ニ明二十七日公表ノ管条約<sup>(編註)</sup>内容別電ノ通り

在欧州各大使へ暗送セリ

三四五 四月二十七日 在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ニ対スル閣外諸派ノ新聞論評報告ノ

件

第四〇号 (四月二十八日接受)

露独条約ニ対スル当国新聞論調ヲ一瞥スルニ政府党ノ諸新聞カ之ニ賛成ナルハ勿論閣外諸派ノ新聞又夫々左記見地ヨリ本条約ニ賛成セリ

一、右党系新聞ハ政府カ「ロカルノ」政策ヲ断念セサルハ遺憾ナルモ少ナクトモ之ト平行シテ露国ニ接近シ成ル可ク東西ノ間ニ行動ノ自由ヲ留保セントスル努力ヲ認め本条約ニ賛成スト論ス

二、「フョールウエルツ」ハ新条約カ露国ノ平和政策ニ基ツク限り露国モ亦連盟ノ平和理想ニ接近シ来レルモノニ

カ(議會議長ノ談)之ニ関シ外務次官ハ本条約ハ十六月ニ亘ル商議ノ成果ナレハトテ頗ル得意ノ色アリ

(三)本条約ニ関シ英國大使ノ所見ヲ蔽キタルニ同大使ハ条約ノ内容ハ今少シク複雑ノモノト思ヒタルニ案外簡單ナリ之ナラハ畢竟「ラツパロ」条約ノ延長ニ過キス別ニ日新シキコト無シト云ヘルモ務メテ之ニ重キヲ置カサル風ヲ装ヘルヤニ見エタリ之ニ反シ波蘭公使ハ第一条第一項ノ規定ハ独逸側ノ態度一ツニテ殆ント空文ニ歸シ得ルト共ニ又其出様ニ依リテハ同盟ト異ルコト無キ状態ヲモ出現シ得ルモノナリ又第二条ノ中立条項ハ制限的ナリト雖モ之カ為露独ノ關係カ「ラツパロ」条約ニ一歩ヲ進メタルハ明カナリトテ心配ケニ語レリ

(四)西欧諸國代表者ハ独逸ノ連盟加入問題ヲ控ヘ居ル為ニヤ独逸ノ行動ヲ殊更ニ詮議立テセサル風有ル処今回ノ露独条約ニ対スル態度モ亦同様ニシテ兎角之ヲ輕ク取扱ハントスル傾アルモ波蘭、羅馬尼等ノ代表ハ今次ノ条約ニ次テ来ルヘキ露独關係今後ノ發展ニ就キ危惧ノ念ヲ以テ注視シ居ルヤニ見受ケラル

(四)尚露國大使館ニテハ条約第一条ノ規定ハ英國ノ經濟的露

国包囲政策ニ対シ一矢ヲ酬ヒタルモノト考ヘ居ル様子ナリ  
在欧各大使及波蘭へ暗送セリ

三四七 四月二十九日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ニ対スルソ連紙ノ論評報告ノ件

第一五五号 (四月三十日接受)

往電第一五〇号ノ通り四月二十三日晚「リトビーノフ」ヨリ  
連邦中執委員会ニ報告アリシ「ソ」独中立条約ハ漸ク四月  
二十七日ノ新聞ヲ以テ公表セラレタリ(条約露文及邦訳  
文郵送セリ)

右ニ付キ客年「ロカルノ」条約締結当時独逸ヲ以テ「ラバ  
ロ」条約ヲ捨テ「ソ」連邦反対ノ連合ニ鞍替セルモノナリ  
トテ不満ヲ訴ヘタル当地諸新聞ハ昨今一兩日ノ紙上ニ於テ  
二十四日ノ伯林条約ヲ以テ独逸カ「ロカルノ」条約ノ幻想  
ヨリ覚メ再ヒ親「ソ」政策ニ復帰スルニ至リタル結果ナリ  
トシ之ヲ「ソ」連邦外交ノ成功ニ帰シ「ソ」連邦ノ如ク資  
本国ト国体ヲ異ニスル勞農共和国カ列国ト不断ノ争鬭ヲ避  
ケ之ト共存シ而モ之レカ為メ同化セラルルコトナカランカ  
為メニハ今回ノ如ク条約ヲ締結スル以外良策ナシ資本国タ

ル独逸カ勞農共和国ト伯林条約ヲ締結シタルハ勞農共和国  
ヲ好ムカ為メニ非スシテ「ソ」連邦ト親マサレハ戰勝国タ  
ル他ノ資本国ニ対スル立場困難ナルニ依ル「ソ」独兩國ハ  
伯林条約ト共ニ相互ノ經濟關係ヲ密接ニシ且兩國「プロレ  
タリアト」ノ接近ヲ計ラサルヘカラス真ノ世界平和ヲ求メ  
ントセハ曩ニ「ソ」連邦カ土国ト締結シ今回又独逸ト締結  
セル中立保障条約ヲ他ノ列国ニモ及ホスヘキナリト論シ居  
レリ

独へ電報シ英、仏、伊へ電報セシム

三四八 四月三十日 在米國松平大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約締結ニ関スル米紙論評報告ノ件

第八八号 (五月一日接受)

独露条約締結ニ関スル当地方新聞論調ヲ綜合スルニ将来独  
逸カ連盟加入後連盟ノ對露制裁ヲ不当ナリト認ムル時ハ理  
事会ノ一員トシテ之ヲ阻止シ得ヘキヲ以テ實際上独露条約  
ト連盟規約ト抵触スルノ途ナカルヘシ(二十八日「ボルチ  
モア」及紐育「タイムス」)トシ新条約ニ於テ独逸ノ目  
的トスル所ハ自國ノ利益ノ為メニ露國トノ經濟關係ヲ促進

セントスルノ外他意ナカルヘク(前記「タイムス」) 独露  
貿易平和關係ヲ維持セントスルハ当然ノ事ナリ(同日費府  
「レコード」)トスルモノアルト同時ニ他方ニ於テハ又連  
盟側ノ勞農敵對行為ニ對シ独逸カ連盟員トシテ反對スヘキ  
旨ヲ約束セル事ニ依リ新条約ハ独逸ノ連盟加入ニ對シ新ニ  
困難ヲ加フルモノニシテ連盟ハ之カ為更ニ一大障壁ニ直面  
スルモノナリ(同日費府「インカイラー」)及華府「ボス  
ト」云々ト論シオレリ

仏、伊ニ電報シ英、獨、露へ電報セシム

三四九 四月三十日 在浦潮渡辺総領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

ウラジヴォストックニ於ケル新聞記事報告ノ

件

公第二〇二号 (五月十一日接受)

大正十五年四月三十日

在浦潮斯德

総領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

蘇独条約ト当地新聞ノ記事論調ニ関スル件

一一 独ソ中立条約問題 三四九

本件ニ関シ御参考迄ニ左ノ通り要報ス  
四月二十八日ノ県機関赤旗紙ハ莫斯科二十七日発「タス」  
通信トシテ四月二十四日中央執行委員会會議ニ於テ「ソウ  
イエト」連邦外務次官「リトウイノフ」カ「ソウイエト」  
連邦ノ國際關係ニ関シ為シタル報告演説トシテ概要左ノ如  
ク掲ケタリ

蘇独關係ニ関シ今回伯林ニテ調印サレタル蘇独条約ハ全部  
公表サルヘキモノニシテ何等密約ヲ伴ハサルモノナルコト  
ヲ声明ス

此ノ条約ハ「ラッパロ」協約ノ追加調訂の条約ニシテ之即  
チ蘇独兩國カ希望シテ已マサル将来ノ兩國親善關係保持ニ  
出テタルモノナリ最近欧州ノ外交言論界ハ本条約カ所謂  
「ロカルノ」条約ノ精神ニ抵触セサルヤニツキ思案シツツ  
アルモ之カ明答如何ハ「ロカルノ」ノ有スル目的の如何ニ懸  
レリト云フヘシ即チ若シ「ロカルノ」条約ニシテ事実欧州  
ノ平和ヲ使命トスルモノナラハ「ロカルノ」条約加担者ハ  
蘇独条約ヲ以テ兩大國民間ノ親善ノ度ヲ深カラシムル一<sup>マ</sup>新  
歩トシテ衷心歓迎セサル可カラサルモ之ニ反シ「ロカル  
ノ」条約ニシテ若シ吾等ノ常ニ疑ヒタルカ如ク其ノ目的ノ



一トシテ排蘇的性質ヲ有スルニ於テハ今日締結セラレタル条約ハ明カニ「ロカルノ」条約ノ精神ニ背反スルモノニシテ吾等ハ或ル程度ニ「ロカルノ」条約ヨリ英國ノ聲ヲ除キ得タルヲ喜ブノミ対仏關係ハ良好ニシテ仏國トハ交渉ノ緒ニ就キタルハカリナルモ協調ノ暁ニハ一般平和ノ上ニ大ナル關係ヲ来ス

英國トハ未タ変化ナキヲ憾ムモ英國政府カ誠意ヲ以テ会商ヲ欲セハ吾人ハ之ニ応スルノ用意アリ

次ニ蘇連ト米國トノ關係ニ就テハ兩國間ノ不調和ハ極メテ大ナリト云フ可カラス諸方面ヨリノ情報ニ依レハ米國政府ハ吾人カ「ケレンスキー」臨時政府時代ノ債務ヲ承認セハ我方ヨリノ對償要求モ審議スヘシト云フニアル如クナルヲ以テ果シテ然ラハ協商ハ困難ヲナススト思フ依テ余ハ今ヤ四圍ノ状況ハ兩國ヲシテ速カニ協商セシメ将来最モ緊密ナル經濟的扶助ニ導クモノナルコトヲ言明シ得ヘシ

次ニ西辺諸小國トノ關係ヲ説キタル後對支關係ニ於テ英國カ恰モ蘇連カ支那ヲ煽動セル如ク論シアルモ吾人ハ支那ノ國民運動ニ同情スルモ内政ニハ干渉セス滿州ニ於テ張作霖トモ親善關係保持ヲ欲シアリト説キタル後日本トノ關係ニ

シ日本トノ關係益々親善ノ実ヲ拳ケツツアリ米國亦漸次承認ニ傾カントシツツアリ独リ頑強ナル英國カ如何ナル程度ニ國際連盟ヲ利用シ得ルヤハ今次ノ条約カ克ク語ル処ニシテ欧州政局ハ之ニヨリ激變ヲ来シ蘇連ノ權威著シク發展セリ云々ト得意ニ論シ且ツ翌二十九日モ略ホ同様ノ筆鋒ニテ本条約ト蘇仏交渉經過ノ良好ナル二事実ハ欧州政局上最モ重要意義ヲナスモノトシテ内外ノ注意ヲ喚起セルヲ説キ条約ノ内容ヲ詳論シ若シ本条約カ對蘇連ノ包圍ヲ突破シタリトセハ仏國トノ修交ハ對蘇連ノ政治的財政的「プロツケード」ヲ擊破スルノミナラス英國ノ帝國主義的計畫ヲ齟齬セシメ欧州ノ新政局ヲ作ルモノトシ仏國カ独逸ノ例ニ倣ヒ蘇連ト共ニ真ノ欧州平和ニ進マンコトヲ望ム云々ト論シタリ

三五〇 四月三十日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛

独ソ中立条約訳文送付ノ件

付記 独ソ中立条約經過概要(欧米局第二課作成調書)

公第一〇九号

(六月一日接受)

大正十五年四月三十日

在ソヴィエト連邦

論及シ日本トノ親善關係ハ蘇連外交根本方策ノ一ナリトス「サガレン」ニ於ケル利権交渉ハ無事終結シ現ニ日本人トノ間ニ極東ニ於ケル森林利権及ヒ漁業ニ関スル交渉ヲナシツツアリ

吾人ハ尚更ニ進ンテ日本トノ親善關係ヲ鞏固且ツ永遠ノ地盤ニ置ク為メ日本トノ繫争問題解決ヲ希望スルモノナリ云々

尚中央執行委員会ハ右報告ヲ聴取シ政府ノ外交ヲ全部承認ノ決議ヲナセリト

尚同紙ハ同日ノ社説ニ於テ大要現欧州カ陽ニ平和ヲ標榜シテ國際連盟ヲ支持シ乍ラ陰ニ民衆ノ脅威タル最モ激甚ナル帝國主義の大戦ニ進ミツツアルニ對シ吾人ハ夙ニ「ロカルノ」条約カ小弱戰敗諸國並ニ蘇連ニ對スルモノナルヲ喝破シタルカ「プロレタリア」ハ國際連盟ノ侵略主義ヲ容認セス自ラ平和事業ヲ掌握セントシ蘇連ハ之カ首魁トシテ努力シ来レルカ今次ノ蘇独条約ハ正ニ「ロカルノ」ノ突破ト對蘇連一致戰線ヲ失敗ニ帰セシメタリ蘇連ハ今ヤ独土ト条約ヲ結ヒ伊國及ヒ「スカンデナヴィヤ」三國トモ友好的ニシテ仏國トノ交渉亦好結果ヲ来サントシ亜細亞ニモ友邦ヲ増

特命全權大使 田中 郁吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

蘇独条約訳文送付ノ件

四月二十四日柏林ニ於テ締結セラレタル蘇独条約全文ハ二十七日当任国外務部ヨリ公表セラレタルニ付右訳文及原文(略)別紙ノ通り報告ス

(別紙)

独逸蘇連邦間条約

独逸及蘇連邦(以下独、蘇)政府ハ一般平和保持ノ為アラユル努力ヲナスノ希望ニ動カサレ且独、蘇國民ノ利益カ完全ナル信任ヲ基礎トスル不斷ノ協調ヲ必要トスルモノナルコトヲ確信シ茲ニ特別条約ヲ締結シテ兩國間ニ存在スル親善關係ヲ増進スルコトニ同意シ之カ為左ノ通り其ノ全權委員ヲ任命セリ

独政府 外務大臣「グスタフ・ストレーゼマン」

蘇政府 在独蘇政府代表「ニコライ・クレスチンスキー」

右委員ハ互ニ其ノ全權委任状ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一条 独蘇間ノ相互關係ノ基礎ハ「ラパロ」条約トス  
独蘇政府ハ兩國ニ同様ニ關係アル政治上及經濟上ノ性質  
ヲ有スルアラユル問題ニ付協調ヲ達スルノ目的ヲ以テ友  
好的接觸ヲ保ツヘシ

第二条 締約国ノ一方カ其ノ平和的の行為ニ不拘第三者タル  
一國又ハ數國ヨリ攻撃ヲ受クル時ハ他ノ一方ハ紛争ノ全  
期間中立ヲ守ルヘシ

第三条 第二条記載ノ紛争ニ関連シ又ハ何レノ締約国モ武  
裝的衝突ニ関与セサル時ニ於テ第三者タル列國間ニ締約  
国ノ一方ニ対シ經濟上、財政上ノ「ポイコット」ヲナサ  
ントスル連合成立シタル時ハ他ノ一方ハ右連合ニ加入セ  
サルヘシ

第四条 本条約ハ批准ヲ要ス批准書ノ交換ハ伯林ニ於テ行  
ハルヘシ  
条約ハ批准書交換ノ時ヨリ効力ヲ發生シ五ヶ年有効トス  
而締約国ハ右期間満了前予メ其ノ政治上ノ相互關係ニ関  
スル將來ノ形式ヲ協定ス

右証拠トシテ各全権委員ハ署名セリ  
「ストレーゼマン」

邦ニ反対ナル傾向現ハレタル時ハ独政府ハ斯ル傾向ニ対  
シ全力ヲ尽シテ反対スヘシ

三、独政府ハ其ノ對蘇政策ノ根本方針ハ独カ國際連盟加入  
後制裁ニ関スル規約第十六条及十七条ヨリ發生スル義務  
ノ誠実ナル遵守ニヨリテ害セラルルモノニアラスト信ス  
前記ノ条文ニヨレハ蘇ニ対スル制裁ノ適用問題ハ如何ナ  
ル前提ノ下ニモ蘇カ第三國ニ対シテ攻勢的戦争ヲ開始シ  
タル時ニ於テノミ起リ得ヘシ而シテ蘇カ第三國トノ戦争  
ニ於テ攻勢ヲトリタルヤ否ヤニ関スル問題ノ決定ハ独ノ  
同意アル場合ニ於テノミ独ヲ拘束ス從テ右ニ関連シ蘇ニ  
対シテ起リ得ヘキ第三者タル列國ノ根拠ナキ訴ハ独ノ意  
見ニヨレハ独ニ対シ第十六条ニ基キ採ララルル措置ニ参加  
スルコトヲ強制スルモノニアラス独カ全般的ニ又個々ノ  
具体的場合ニ如何ニ制裁ノ適用ニ参加シ得ルヤ否ヤノ問  
題ニ関シテハ独政府ハ「ロカルノ」条約署名ト同時ニ独  
代表ニ手交セラレタル第十六条ノ解釈ニ関スル一九二五  
年十二月一日付公文ヲ援用スルモノナリ

四、両政府ハ兩國間ニ發生スルアラユル問題ヲ円満ニ解決  
スル鞏固ナル基礎ヲツクル為兩國間ニ發生スルコトアル

「エヌ・クレスチンスキー」

千九百二十六年四月二十四日 伯林ニ於テ

同日付交換公文

独全権ヨリ蘇全権ニ宛テタル公文

本日独蘇政府間ニ署名セラレタル条約締結ニ関スル交渉ニ  
基キ本官ハ独政府ノ名ニ於テ次ノ諸項ヲ確認ス

一、両政府ハ条約締結ニ関スル交渉並其ノ署名ニ当リ兩國  
ニ關係アル政治上及經濟上ノ性質ヲ有スルアラユル問題  
ノ協調ヲ規定セル条約第一条第二項ノ主義ハ一般平和ノ  
保持ニ有効ニ資スル所アルヘシトノ觀念ニ出發セリ兩政  
府ハ如何ナル場合ニ於テモ一般平和ノ保持ヲ必要トスル  
見解ニ基キテ交渉スヘシ

二、両政府ハ右精神ニ基キ独ノ國際連盟加入ニ関連スル主  
義上ノ問題ヲ議セリ独政府ハ其ノ國際連盟加入カ独蘇親  
善關係發達ノ障害タラサルコトヲ確信ス國際連盟ハ其ノ  
根本精神ニ於テ國際間ノ矛盾ヲ平和且公平ニ調整スルヲ  
使命トス独政府ハ力ノ限り右精神ノ實現ニ資スルコトニ  
決セリ独政府ハカカルコトナシトハ信スルモ若シ右ニ不  
拘國際連盟内ニ何時カ右根本精神ニ反シテ一方のニ蘇連

ヘキ紛争ノ平和的解決ノ為一般条約ノ締結ニ関スル交渉  
ヲ即開スルコトヲ適當ト認ム右ニ付テハ仲裁裁判並協議  
的性質ノ方法ヲ適用スルコト可能ナルコトヲ特ニ考量ス  
ル必要アリ

蘇全権ヨリ独全権ニ宛テタル公文

本使ハ本日蘇、独政府間ニ署名セラレタル条約締結ノ交渉  
ニ基キ本使ニ寄セラレタル貴翰ヲ了承シ且蘇政府ノ名ニ於  
テ左ノ通り通告スルノ光榮ヲ有ス

一、(独全権ノ公文一ト同文)

二、独ノ國際連盟加入ニ関連スル主義上ノ問題ニツキテハ  
蘇政府ハ貴翰第二項及第三項ニ記載ノ声明ヲ了承ス

三、(独全権ノ公文四ト同文)

(付記)

独ソ中立条約經過概要(欧米局第二課作成調査)

独露協約問題

一、「ロカルノ」會議後ノ獨露關係

独露兩國ハ一九二二年四月十六日ノ所謂「ラッパロ」条約  
並一九二三年之ヲ「ソヴィエト」共和国ニ連合セル諸地域  
ニ拡張適用スル旨ノ約定ニ依リ特別ノ交誼ヲ重ネ来リタル

処客年二月九日付ノ独逸ノ対仏保障条約提議ニ依リ形勢一転ノ觀ヲ呈セリ即チ安全保障条約協議ノ進展スルニ從ヒ露國ハ益々危懼ノ念ヲ抱キ「ロカルノ」會議（十月一日ヨリ同十六日ニ至ル）ノ開催セラルルニ先チ九月三十日露国外相「チチェリン」ハ独逸外相「ストレーゼマン」ヲ訪問シ独逸カ國際連盟ニ加入シ保障条約ヲ締結セントスルハ英國ノ反露政策ノ手先ニ使ハルルモノニシテ「ラッパロ」条約ノ精神ニ反スト難シ露國ハ今後全ク孤立ノ地位ニ陥ルヘシト痛嘆シタリト伝ヘラレ十月十六日「ロカルノ」条約成立スルヤ露國新聞紙ハ一斉ニ独逸ハ終ニ西歐資本國ノ傀儡ニ墮レリト為セリ之ニ対シ「ストレーゼマン」外相ハ常ニ独逸ノ保障条約締結及連盟加入ハ何等反露の意味ヲ有セス露國ノ利益ハ却テ之カ為ニ保全セラルルモノナル所以ヲ力説シタリト伝ヘラレ新聞紙等カ「チチェリン」ノ「ワルシヤワ」訪問ヲ以テ露國ハ今ヤ波蘭ヲ自家葉籠中ノモノタラシメント腐心シツツアリ將ニ勞農外交ノ一転機ナリト為セルカ如キハ寧ロ妄斷タルヲ想ハシメタリ

殊ニ「ロカルノ」条約ノ成立ニ先ツ四日即チ客年十月十二日勞農政府外務部ニ於テ一九二四年十一月以來行惱ミ中ナ中立条項ヲ含ムト為スアリ勿論其ノ適確ナル内容ハ審ナラサルモ本協約ニ関シ独逸外務省第四（東歐及亞細亞部）部長（「ワールロート」）ノ在独伊藤代理大使ニ語ル処ニ依レハ

露國ハ夙ニ独逸ノ「ロカルノ」条約締結並連盟加入ヲ以テ露國ヲ孤立セシムルモノトシテ頗ニ之ヲ氣ニ病ミ居タルカ西歐諸國トノ間ニ解決スヘキ幾多ノ重要問題ヲ控フル独逸トシテハ西歐諸國トノ諒解政策ハ已ムヲ得サル処ナルト同時ニ右政策ハ決シテ独逸カ露國ヲ棄テテ露國包圍政策ニ加ハルモノニ非サルヲ幾度カ釈明シ保障セルニモ拘ラス露國ハ尚之ニ安ンセス頃日独逸ニ対シ客年十二月十七日締結セラレタル露土協約ニ倣ヒ中立条約ノ締結方ヲ申出タルカ独逸カ既ニ連盟加入ヲ決定シ居ル今日場合ノ如何ヲ問ハス独逸カ中立ヲ守ルヘシトノ約束ハ連盟規約第十六条（所謂經濟封鎖規定）ノ關係上到底之ヲ為シ得サルモ独逸カ從來他ノ諸國トノ間ニ締結セルト同様ノ仲裁調停条約ナラハ之ヲ結フヘキ旨並独逸ノ連盟加入ハ反露の意味ヲ有スルモノニアラス從テ經濟上ノ独露提携ニハ異議ナキ旨ヲ以テ之ニ応酬セルニ露國ハ右ノ具案

リシ独露通商条約ノ調印セラルルアリ露獨間ノ關係ハ新聞紙ノ報スルカ如ク「ロカルノ」条約ノ結果大イニ疎隔シツツアリトハ信シ得サル情勢ニアルノミナラス一方露國ハ其ノ内政上ノ理由ヨリ其ノ辺境諸國殊ニ波蘭独逸ト親善關係ヲ開拓シツツアルノ実績ヲ擧クルノ要アリ他方独逸ハ其ノ復興ヲ達成スルノ要締ハ經濟的安定ニ在ルヲ以テ特ニ對露貿易ヲ重視シ露國內ノ各種利権ノ獲得ニ專念シツツアルノ際独露兩國間ニ何等カ交渉ノ進行中ナルハ想像スルニ難カラサリシ所ナリ

二、独露中立条約說  
這般ノ國際連盟總會後独露兩國間ニ或種ノ政治的交渉行ハルヘシトハ在独波蘭公使ヲ始メ英、仏各大使等ノ等シク予想シ居ヨル処ナリ果然四月十四日ノ倫敦「タイムス」ハ独露兩國間ニ保障条約ノ締結近キニアル旨並右ニ関シ独逸政府ヨリ英、仏、伊ノ三國政府ニ通告スル所アリタル旨ノ伯林通信ヲ掲クルニ及ヒ独逸新聞等モ今更ノ如ク本問題ノ論評ニ忙殺セラルルニ至レリ

右協約ノ内容トシテ伝ヘラルル所区々殊ニ政治的意味ノ有無ニ関シテハ巷説紛々タリ又同協約中ニハ經濟条項ノ外ニニテハ排露的傾向ヲ有スル國カ仲裁國ニ選任セラルルコトアルヘキヲ懸念シタル為未タ何等ノ協定ニ達シ居ラス右ノ如キ次第ニテ協定ノ内容ハ未タ確定セサルモ諒解成立ノ上ハ「ラッパロ」条約ノ連続トシテ之ヲ条約ノ形式ヲ以テ規定スルヲ可トスヘシトノ談合丈ハ出来居レリ又条約成立ノ上ハ之ヲ連盟事務局ニ登録スルコト勿論ニシテ英仏政府ヘノ内報モ右ノ程度ノモノニ過キスト云フ以上ノ独逸当局者ノ説明ニ依ルモ問題タル協約ノ内容ハ明カナラサルモ大体ニ於テ客年十二月十七日ノ露土中立協約ノ内容ニ類似セルモノナルカ如シ

新聞電報ハ「ヘルシングフォールス」駐在露國代表「ヴェレバルリ」氏カ四月十五日芬蘭外務省ニ対シ露國政府ハ芬蘭其ノ他「バルティック」諸國及波蘭ト夫々別個ノ非攻撃条約締結ノ交渉ヲ開始スル手筈ナル旨ヲ通告シタル趣ヲ伝ヘ右条約ニハ一締約國カ第三國ノ攻撃ヲ受クル場合ニハ其ノ締約國ハ中立ヲ守ル旨ヲ規定シ居リ最近露獨間ニ問題トナリ居ル条約モ右ト同様ナル趣ヲ報道シツツアルニ徴セハ今回ノ独露協約ノ内容ハ前記露土協約ノ内容即チ  
(一) 締約國相互非侵略ノ約定（第二条）

(二)締約国ノ一方カ戦争ノ場合ニハ他ノ締約国カ中立ヲ守ルノ約定(第一条)

(三)締約国相互間ノ争議ニシテ普通外交手段ニ依リ終結セラレサルモノノ解決手續ヲ協定スヘキ約定(付属議定書第二)

ヲ以テ要旨トスルモノノ如シ(付録露土協約要訳参照)

殊ニ伯林密合同通信カ本協約ニ於テ露独兩國ハ對手国ニ対スル第三国ノ侵略ニ加ハラサル旨及他国カ對手国ニ対シテ執ルコトアルヘキ經濟的敵対行動ニモ参加セサルヘキ旨ヲ誓約セリト伝ヘ宛モ前記露土協約ノ輪廓ヲ反映スルモノアリ

三、独露協約説ノ反響

(1)仏国

仏国外務省ハ本協約ハ近ク成立スヘシト觀察シ居ル処其ノ影響ニ付テハ「ブリアン」一派ハ「ロカルノ」諸条約ノ手前モアリ之ヲ輕視セントシ居ルニ反シ「ベルトロ」一派ハ之ヲ重大視シ独逸ハ此ノ武器ヲ用ヒテ仏国ニ「プレッション」ヲ加ヘ先ツ第一ニ「ライン」占領軍ノ減員ヲ要求スヘシト為シ之ヲ抑制スル為メニモ懸案中ナリ

約ニ対抗セムトスル一般段階ニ外ナラス故ニ仏国ハ速カニ中欧諸国トノ条約ヲ締結スルコト肝要ナリト論シ居レリ

(2)英国

英国側トシテハ本協約ニ関シ大体「ロカルノ」条約ト抵触セサル以上格別差支ナシトノ態度ヲ持シ居レリ  
四月十九日ノ倫敦諸新聞ハ右英国政府ノ態度ハ普通ノ外交経路ニ依リ「ロカルノ」条約調印諸国ニ通報セラレタル旨ノ其筋ヨリ出テタリト認メラルル記事ヲ掲載シ居レリ

(3)独逸

独逸政府筋ノ内話ハ前項ニ述ヘタル処ノ如シ  
伯林各新聞紙ハ諸外国ノ新聞紙カ一齊ニ露独協約ヲ重大視セルニ対シ寧ロ意外ノ色ヲ示シ本協約ノ締結ハ「ロカルノ」諸条約ノ自然ノ結果ナリト為シ更ニ独逸ハ其ノ地理的見地ヨリシテ東方及ヒ西方ニ同様ノ親善關係ヲ持スルコトヲ要シ且東西孰レノ政治圏内ニモ全然捲キ込マレサルヲ要スト論シ居レリ

付録

ル仏羅間及仏塞間ノ政治条約ヲ速カニ締結スヘシト主張シ居ル趣ナリ而シテ独逸カ本協約ヲ締結セントスルニ至レル主因ハ露国カ従来幾多ノ利権ヲ以テ独逸ノ資本家ヲ釣リ居ルカ為メナリト觀測シツツアリ

更ニ本協約締結説ニ関シ仏国諸新聞ハ外務省カ其ノ經過ヲ知悉シ居リ公然ノ事實ナルモ原文ヲ見サル間ハ是非ノ論ヲ下シ得ストテ留保的態度ヲ執ルモノ多キモ

「ル・タン」ハ独逸カ「ロカルノ」協約ニ深入リシツツアル今日露国ト同盟条約様ノモノヲ締結スルハ不可能ナルヘク旁々本協約ハ空漠且局限的ノモノナルヘシトナシ「クオテデアン」ハ本協約ハ露独間ノ「ロカルノ」条約トモ目シ得ヘク内容自体ハ「ロカルニスト」ニトリ何等異議ナカルヘキモ唯寿府ニ於ケル國際連盟總會失敗シ且軍備予備會議ニ露国カ参加ヲ拒絶シタル今日其ノ締結ヲ見タルハ無稽ニ非スト論シ

「エコ・ド・パリ」ハ独逸ノ「ロカルノ」条約参加ハ要スルニ平素ノ野心ヲ遂行スルニ便ナリト思惟セルニ依ルモノニテ今回ノ独露協約モ亦同様ノ目的ニ出ツ又露国ヨリセハ這般ノ露土協約ト同様本協約ハ「ロカルノ」協

露土協約要訳(一九二五年十二月十七日調印済)

代表者

土耳其共和国外務大臣 「テュイフキク・ルチデ・ベ

ー

露国外務人民委員長 「ジョルヂ・チチェリン」

第一条 一国又ハ數国ノ第三国カ締約国ノ一方ニ対シ軍事行動ヲ企ツル場合ニハ他ノ締約国ハ右被侵略締約国ノ領土内ニ於テ中立ヲ守ルコトヲ約ス

(右ニ所謂軍事行動トハ他ノ締約国ノ利害ニ何等危殆ヲ及ホササル軍事動作ヲ含マス)

第二条 各締約国ハ他ノ締約国ニ対シ如何ナル攻撃ヲモ為ササルコトヲ約ス

兩締約国ハ二国又ハ數国間ニ締結セラレ且本協約締約国ノ一方ヲ目的トシ又ハ右締約国ノ一方ノ国防上(海軍及陸軍)ノ安全ヲ危険ナラシムル如何ナル同盟又ハ政治的性質ヲ有スル如何ナル協商ニモ加盟セサルコトヲ等シク相約ス

又兩締約国ハ一国又ハ數国ノ第三国ニ依リ締約国ノ一方ニ対シ企テラルル如何ナル敵対行動ニモ加担セサルコト

ヲ約ス

第三条 本協約ノ効力ハ批准ノ日ヨリ發生シシケ年間存続ス

締約国ノ一方カ右効力終了ニ先ツ六カ月前ニ本協約ヲ廢棄セサルトキハ本協約ハ当然一ケ年間延長セラルモノトス

署名 「デュイフキク・ルチデ」 「ジョルヂ・チチエリン」

議定書 (一)

本協約中ニ於テ為シタル約定以外ニ付各締約国ハ其ノ第三国トノ關係ニ関シ總テ其ノ行動ノ自由ヲ保持スルモノトス

議定書 (二)

両締約国ハ本日付ヲ以テ調印セラレタル協約第二条中ノ「政治的性質ヲ有スル協商」ナル字句ハ数国間ニ締結セラレ且本協約締約国ノ一方ヲ目的トスル總般ノ經濟的及財政的約定ヲモ同様ニ包含スルモノナルコトヲ認ム

而締約国ハ其相互間ニ起ルヘキ爭議ニシテ普通外交手段ニ依リ終結セラレサルモノヲ解決スヘキ手續ヲ定ムル為協約ヲ開始スヘキコトヲ等シク相約ス

ベネシユ外相声明ニ関スル記事送付ノ件

公第四七号

(六月一日接受)

大正十五年五月三日

在致須国

特命全權公使 菊池 義郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

当国外務大臣外交声明ニ関スル記事送付ノ件

客月中旬露独中立条約交渉終結ニ近キタル際伯林ノ新聞紙カ所謂「ベネシユ」外相回章事件ナルモノヲ掲載シ(一)「ベネシユ」氏カ波蘭首相ト相談ノ上締結交渉中ノ露独中立条約ハ連盟規約ニ違反スルヲ以テ之ヲ承認スルコトヲ得サル趣旨ノ回章ヲ「ロカルノ」条約当事国ニ回付セルハ独逸國ニ対スル内政干渉タルノミナラス(二)致須國ハ自身千九百二十二年締結ノ露致通商協定前文ニ於テ露國ニ対シ第三國トノ紛争ノ場合中立ヲ守ルヘキコトヲ約束シ乍ラ今更露独条約ニ付云々論議ヲ上下スルハ其真意ノ奈辺ニ在ルヲ知ルニ苦ムトテ激シク之ヲ攻撃セル次第ハ既ニ御承知ノコトト思考スルカ当地ニ於テハ外相機関紙「プラーゲル・プレッセ」カ之ニ対シ(一)「ベネシユ」氏今回ノ挙措ハ唯同氏カ露

三五二 五月一日 在仏國石井大使ヨリ 幣原外務大臣宛 (電報)

独ソ条約ヲ研究セル仏国外務省ノ措置ニツキ

報告ノ件

第一五六号

(五月二日接受)

往電第一五五号「ベルトロー」ノ談ニ依レハ仏国外務省ハ露独条約ヲ逐条研究ノ結果連盟規約第一六条第一七条ト齟齬ストノ結論ニ到達セルヲ以テ仏國ハ近ク右意見ヲ「ロカルノ」締約國ニ致スヘキト共ニ此ノ際例ヘハ對露問題ニ関シ独逸以外ノ理事会ノ意見カ一致スル場合独逸ハ如何ナル態度ヲ採ルヘキカヲ各締約國ノ名ヲ以テ独逸ニ質問スルコトトシタキ心算ナリ尤モ独逸ノ右ニ対スル回答振リハ今ヨリ予想シ得サルモ今ノ所此ノ方法以外他ニ妙案ナカルヘシ尚此ノ条約外ニ秘密条約存スルヤノ疑アルヲ以テ極力探查中ナリ云々

在歐州各大使 在露大使、在土耳其古大使、在波蘭、羅馬尼、チエツコ・スロヴァキア各公使へ暗送セリ

三五二 五月三日

在チエツコスロヴァキア國菊池公使ヨリ 幣原外務大臣宛

独条約ニ関シ各方面ヨリ意見ヲ徵サレタルニ対シ文書ニ依ルモノハ文書ヲ以テ口頭ニ依ルモノハ口頭ヲ以テ(例ヘハ在當地独逸公使「コツホ」氏ニ対スルモノノ如シ)回答セルニ止リ何等當国政府トシテ独逸政府ノ条約締結ニ干渉ヲ試ミントテ「イニシヤチーヴ」ヲ執レルモノニ非ス連盟理事タル「ベネシユ」氏ニ於テ近ク連盟國タル義務ヲ引受けントスル独逸カ此ノ義務ト法理上背反スルコトナキヤノ疑義ヲ有スル条約ヲ締結セントスルニ際シ其ノ意見ヲ述ヘタリトテ夫ハ獨リ同氏ノ權利タルノミナラス同時ニ義務ナリト云ハサル可ラス然ルニ偶々之ト時ヲ同シクシテ實現セル「スクシンスキー」氏ノ「プラーゲ」訪問トヲ付会シテ彼此云フ如キハ人ヲ誣フルモノ甚シク(二)且独逸新聞ハ露致通商協定前文ヲ引照シ居ルカ右前文中ノ中立云々ハ單ニ兩國將來ノ方針ヲ表明セルニ止リ何等條約上ノ義務ヲ引受けタルモノニ非ス從テ連盟規約ニ背反スル所ナント解スヘク独逸カ条約正文ニ於テ中立義務ヲ負擔セントシ居ルトハ大ナル徑庭アリト云ハサル可ラスト酬ヒタルコトアルノミニテ他ニ當国官辺ノ本件ニ対スル意見ヲ聴カサリシカ客月三十日「ベネシユ」外相ハ上院外交委員會ニ於テ本件並連盟理

事増員問題ニ関スル一声明書ヲ朗読セリ其述フル所ハ留保ノミ多ク別段耳新シキ説ニ非サルモ以テ同外相意見ノ方向ヲ察知スヘシト思考スルニ付何等御参考迄別紙「ガゼット・ド・プラーグ」(外相機関紙)切抜茲ニ送付ス

本信写送付先 仏

編註 ココニ左ノ付箋ガアル

本条約ハ一九二二年「プラーグ」ニ於テ調印セラル問題タル前文左ノ如シ

「両国間ニ通商及経済關係ヲ樹立セムコトヲ希ヒ且締約国ノ一國ト第三國トノ紛争ニ際シ締約国ノ各自ハ互ニ中立ヲ守ルルノ必要ナルコトヲ思ヒ左ノ如ク協定セリ」

三五三 五月五日 在仏国石井大使ヨリ 幣原外務大臣宛

独ソ新条約ニ関スル仏国新聞論調報告ノ件

公第三一九号 (六月九日接受)

大正十五年五月五日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露独新条約ニ関スル仏国新聞論調報告ノ件

露独新条約規定ハ二十七日当地新聞ニ掲載セラレタ多数ノ新聞ハ之カ論評ヲ試ミタルカ大体ニ於テ右派ノ新聞ハ新条約ヲ以テ連盟規約及「ロカルノ」条約ニ反スルモノト為シ左派ノ新聞ハ其効果影響ヲ努メテ輕視セントスルニ傾キ共產党ノ新聞ハ之ヲ以テ労働外交及世界無産階級ノ勝利ナリトテ無条件ニ賞讃セリ尚是等ノ評論中ニハ独逸ノ連盟加入後連盟ノ対露活動ヲ自在ニセンカ為理事會ノ全員一致制ノ改正ニ論及セルモノアリ旁々何等御参考迄前記諸論評中主ナルモノノ大要左ニ報告ス「エコー・ド・パリ」(「ベルチナツクス」)

独逸ハ「ロカルノ」以来連盟ニ接近セントシツツアツタカ今回ノ条約ニ依リ連盟ニ對抗スル勢力ニ手ヲ仮サウトスルニ到ツタ露独兩國ハ同条約付属書翰中ニ本条約ハ独逸ノ連盟加入ト抵触セヌ旨ヲ述ヘテキルカ理事會カ労働ニ対シ規約第十六条第十七条ノ手段実行ヲ議決スルニハ全会一致ヲ必要トスルカラ本条約ノ結論トシテ連盟カ労働ニ対シテ或手段ヲ採ルヤ否ヤハ一ニ伯林ノ意思ニ係ルコトナリ然モ連盟ニ於ケル独逸ノ態度ハ労働ニ依リ左右セラルトイフコトニナル実ニ本条約第三条ハ破廉恥極マルモノテ独逸ノ

態度ハ連盟ノ根本精神タル *bonne fois* ヲ破ルモノテアル仍ホ同紙ハ二十八日再ヒ左ノ如ク論ス

露独交渉中ニ独逸ノ意思ヲ質サントシタ智恵古外相「ベネシユ」ノ企図ヲ阻ンタ英國ハ新条約成立ノ報ヲ手ニシテ「總テハ既成事実トナツタ徒ニ過去ヲ嘆クハ愚タ来ル九月寿府テ独逸連盟加入問題ヲ審議スル際ニ吾人ハ新条約カ規約ト両立シ得ルカ否カラ審議シ得ルテハナイカ」ト云フテキルカ九月ニハ恐ラク一片ノ法律的議論ノ末独逸ヲ連盟ニ入ルルトイフ結果トナルテアラウ

独逸ハ労働ト結フノ自由ヲ有スルカ其ノ約定カ規約ニ違反スルカトウカハ連盟ノ判断スヘキモノテアル一休寿府ノ企図ハ總テ空想的テアル然モ一般民衆ハ真ニ永久平和ヲ可能ナラシムル制度ヲ要求シテキル從ツテ露独新条約ヲ手ニシタ政治家ハ須ラク民衆ニ対シテ寿府ノ空想ハ破壊サレタト白状スヘキテアラウ要スルニ伯林条約ハ規約ノ精神ト正反対テアルカラ吾人ハ独逸ノ説明ニ満足セズシテ其欺罔ヲ叫ハネハナラヌ

「オム・リブル」

本条約締結後独逸ハ莫斯科ト一致ノ上ナラテハ労働ニ対ス

ル連盟ト決定ニ賛否ヲ表セナイテアロウ從ツテ労働ハ独逸ニ依リ連盟ニ加入シタコトナリ其結果独逸ハ将来連盟テ露独ノ *Veto* ヲ行使スルテアロウ

「タン」(社説)

本条約ハ露独ノ反連盟反「ロカルノ」精神ノ発現テアル西歐ハ「ラパロ」テ労働ニ接近シタ独逸ヲ「ロカルノ」テ労働カラ引離シテ西欧ニ接近サセルコトニ成功シタカ今回労働ハ再ヒ独逸ヲ自分ノ方ニ抱キ込シタ之労働外交ノ成功テアル本条約ニ付テハ從來二種ノ解釈カアリ独逸ノ解釈ハ本条約ハ独逸ノ連盟国トシテノ義務ヲ考慮シタモノタトシ労働ノ解釈ハ本条約ハ露土条約ト同一精神ニ基クモノタト為シタルカ条約文面カラ觀ルト結局労働ノ解釈カ真実ラシイ蓋シ(一)規定殊ニ条約前文カラ察スルト本条約ハ修好、善隣、非攻撃条約以上ノモノテアリ(二)第二条第三条ノ精神ハ文字ハ兎モ角精神ハ絶対的相互中立ヲ約スルモノテ之ト独逸ノ連盟国トシテノ義務ヲ調和スルハ困難テアルカラテアル本条約ハ労働ノ独逸カラ期待スルモノノ全部テナイト同時ニ連盟国ヲシテ独逸ニ対シ疑惑ヲ懷カシムルモノテアル要スルニ独逸ハ「ロカルノ」条約及本条約ヲ締結シテ東西トヲ選

扱スルノ権能ヲ保持セント試ミタモノテアラウカ此態度カ  
 独逸ノ連盟加入ト両立シ得ナイノハ明白ナ事実テアル  
 「マタン」ハ二十九日論シテ云フ（「ジュール・サウエル  
 ワイン」）

独逸議會外交委員会カ本条約ヲ全会一致テ可決シタコトハ  
 独逸国民全体カ本条約ニ賛成テアルコトヲ示スモノテアル  
 本条約ニ付テハ倫敦、巴里、「プラグ」、「ワルソウ」ノ  
 法律専門家テ研究中テアルカ少クトモ新条約カ独逸ノ連盟  
 加入ヲ有名無実ニ為シ同時ニ独逸ヲシテ左ノ二政策を操ラ  
 シムルモノテアルコトハ疑ヒ無イ即チ第一ニ欧州ニ紛争ノ  
 発生スル場合独逸ハ労働ニ対シテ（一）反労働の傾向ニ反対ス  
 ルコト（二）労働ニ対抗スル何等ノ行動ニモ参加セナイコト（三）  
 紛議発生ノ場合ニ労働カ果シテ攻撃者テアルカ否カハ独逸  
 自身判断スル旨ヲ約束シテキル理事会ノ議決ニハ全員一致  
 ヲ必要トスルカラ独逸カ連盟ノ労働ニ対スル行動ヲ阻止ス  
 ルハ容易テ之カ為吾等ハ今後連盟ハ労働ニ対シテ何等ノ制  
 裁行為ニモ出テ得ナイコトヲ断言シ得ル第二ニ欧州平時ニ  
 独逸ハ連盟国トシテノ全部ノ権利ヲ有シ他方露土ト結合シ  
 テ連盟反対ノ団体ヲ構成シ連盟ニ於テ独逸ハ労働土耳其古ノ

ノテ無イ要ハ「平和的態度」ニ与ヘラ（レ脱カ）ル解釈カ  
 謎テアルトイフコトテアル

「ヴォロンテ」（「ジャン・ルシエイル」）

本条約ニ付テ吾人ハ過度ニ悲觀シテハナラヌ本条約ノ真価  
 ヲ知ルニハ労働ノ連盟ニ対シテ有スル侮蔑ヲ考慮セネハナ  
 ラヌ労働ハ連盟カ他日英國主宰ノ下ニ政治的、経済的、軍  
 事的反労働同盟ヲ構成スヘキコトヲ懸念スル余リ独逸ノ連  
 盟接近ヲ妨害シテ成功シナカツタカ爾後労働ハ独逸ニ対シ  
 テ少クトモ前記危険ニ対スル保証ヲ求メタ結果本条約ノ締  
 結ト為（ツ）タノテアル從テ本条約ハ驚クヘキモノテナ  
 イ尤モ之テ独逸カ連盟テ労働ノ代弁者保護者ト為ルノハ事  
 実タカ連盟理事会全員一致ノ原則カ変更セラレナイ限り独  
 逸ハ理事会ニ veto ヲ有スルカラ之ハ独逸連盟加入ヲ規定  
 シタ「ロカルノ」条約ノ必然ノ帰結テアツテ独逸ノ責任ヲ  
 問フ理由トハナルマイ

新条約ノ意義ハ以上ニ尽キルカ新条約ハ二個ノ政策ノ萌芽  
 ヲ有スル一ハ「ロカルノ」政策ニ反シ独逸ヲ更ニ労働ニ接  
 近サセ独逸ノ連盟加入ヲ連合國並連盟打壊シノ外交武器ト  
 為スモノタカ条約付屬書翰ニ依レハ之ハ真実ニ違イラシイ

代弁者トシテ活動スルコト之テアル独逸外交家ニ云ハシム  
 レハ之單純ナル勢力均衡策ニ戻ルモノテアラウカ之武装的  
 平和ニ代フルニ仲裁、安全、軍縮ヲ以テセントスル連盟及  
 「ロカルノ」ノ精神ヲ破壊スルモノテアル独逸ハ自由ニ自  
 己ノ政策ヲ決定シ得ルカ同時ニ相反スル二個ノ政策ノ実行  
 ハ許スヘカサルモノテアル本条約ヲ以テ労働ノ連盟接近  
 ノ端緒ト論スルカ如キハ有リ得ヘカサルコトヲ信スルモ  
 ノテアル

「コチヂアン」（「ホモ」）

本条約ノ骨子ハ第二条ト第三条トニアル第二条ハ一見他日  
 連盟カ労働ニ対シテ採ルコトアルヘキ手段ニ対シ一ノ堰ヲ  
 設クルモノテ之ニ依テ利益ヲ享受スルノハ労働テアルラシ  
 イカ問題ハ条約当事國カ「平和的態度ニ係ハラス」ナル漠  
 然タル文句ニ与フル解釈テ定マル第三条ハ第二条ト不離ノ  
 關係ニアル連盟國タル独逸ト非連盟國タル労働トノ間ニ  
 「平和的態度」ニ付異ツタ解釈ヲ有スルコトカアリ得ルカラ  
 「被攻撃國ノ平和的態度」ト独逸ノ態度トヲ相関セシメタノ  
 ハ労働ニ対シ充分ノ保証トハ云ヘマイ全体トシテミレハ本  
 条約ハ「ロカルノ」条約並連盟規約ニ形式的ニ衝突スルモ

一ハ独逸ヲシテ労働ト連盟トノ連契者タラシメントスルモ  
 ノテ労働カ終局ハ連盟ニ加入スルコトヲ予期スルモノタカ  
 独逸ノ真意ハ之ニアルラシイ

「プープル」

条約付屬書翰ニ依レハ連盟ノ對露制裁決定ハ独逸ノ意思ニ  
 係ルコトトナル兎角新条約ハ小協商國並労働隣接國ニ不定  
 ノ念ヲ抱カシムルニ足ルモノテアル要スルニ独逸ハ「ロカ  
 ルノ」ト「ラパロ」トノ選択ニ躊躇シ寧ロ兩者ノ「バラ  
 ス」ヲ保持シ兩方カラ利益ヲ得ヨウト試ミタラシイ此ノ態  
 度ハ一般の平和組織ニ加入シヨウトノ意思ト両立シ得ヌト  
 ハ云ヘヌシ又新条約ハ形式的ニ「ロカルノ」精神ニ反スル  
 トモ云ヘナイカ唯懸念ニ堪エヌノハ締約國ノ一方カ明白ニ  
 「ロカルノ」及寿府ニ敵意ヲ有スルコトテアル要スルニ本  
 条約締結ニ依リ吾人ハ一般条約ノ範疇ニ入ラナイ特別協定  
 ノ危険ト理事会ノ活動方法改正ノ必要トヲ感セシメラレタ  
 共產黨機關紙「ユーマニテ」ハ新条約ヲ無条件ニ承認シテ  
 左ノ通り論断ス

「ロカルノ」条約カ當時多数ノ者カ弁解シテイタ様ニ労働  
 ニ対シテ向ケラレテイナイモノトシタラ欧州諸國ハ露独新

条約締結ニ対シ之程驚駭スルニハ及ハナカツタテアラウ要スルニ本条約ハ「ロカルノ」条約ノ労働反対ヲ中和スルモノテ労働外交ノ勝利世界無産階級ノ勝利テアルト見テヨイ本信写送付先 在独、在露大使

三五四 五月六日(着) 在英國松井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

独ソ条約ニ関スル英國各紙ノ論調報告ノ件

第七九号

独露新条約ニ関スル当国新聞ノ論調ハ党派ノ別無ク概シテ穩健ニシテ独逸ニ対シ同情的態度ヲ表スルト共ニ慎重ノ研究ヲ要求シ居レリ大要左ノ通り

- (a) 新条約ハ条文中連盟規約及「ロカルノ」条約ニ抵触スルモノニ非ス独逸ハ此種条約ヲ締結スルコト自由ナリ
- (b) 大陸諸国カ本条約ニ付猜疑ヲ抱クハ遺憾ナリ本条約ハ却テ独逸ノ連盟加入ヲ露国ノ加入ノ手引トナスヘシ
- (c) 然レ共本条約ハ独逸ノ連盟加入行悩ノ自然の結果ニシテ若シ独逸カ「ロカルノ」条約ト「ラパロ」条約トヲ調節スル必要アリトセハ西欧諸国モ亦「ロカルノ」当時ノ意見ヲ新事態ニ適応セシムル様考慮スル必要アルヘシ

(d) 露国ハ本条約ニ依リ独逸カ連盟ニ於テ露国ノ利益ノ為常ニ拒否權ヲ行フコトヲ容易ニシ得ヘク此ノ点ハ連盟ニトリ望マシカラス

(e) 本条約ハ独露關係ノ基礎ヲ「ラパロ」条約ニ置クト規定スルモ「ラパロ」条約ハ政治的密約ヲ伴フヤノ疑有ルヲ以テ独逸ハ此ノ点ヲ明確ニ発表スル要アリ

三五五 五月二十五日 在英國松井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛

独ソ中立条約ニ関スル英國ノ世論報告ノ件

公第二七五号

大正十五年五月二十五日

在英

特命全權大使男爵 松井 慶四郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露独間伯林条約ニ関シ英國輿論報告ノ件

本年四月八日ノ英國新聞紙上ニ露国ハ独逸ニ対シ「ラパロ」条約ノ確認ト如何ナル場合ニ於テモ露国ニ敵対スル行動ヲ執ラサル旨ノ証言トヲ要求シ居ル趣ノ「チチェリン」ノ声明伯林ヨリ報道セラレタルカ超エテ四月十四日ノ「タ

イムス」紙ハ露独間ニ一種ノ条約締結中ナリトノ伯林通信

ヲ掲クルト同時ニ右条約ハ一九二二年ノ「ラパロ」条約ヲ客年ノ「ロカルノ」条約ノ諸条項ニ適応セシメトスル目的ヲ有スルモノニシテ既ニ数日前英、仏、伊諸国ハ独逸政府ヨリ露国ト新条約締結中ナリトノ通報ヲ受ケ且右新条約ハ如何ナル点ニ於テモ「ロカルノ」条約ノ精神及ヒ条文ニ抵触スルモノニ非ストノ独逸政府ノ明示的確言ヲ得タリトノ記事ヲ掲載シ其後右条約ノ内容ニ関シ諸種ノ臆測行ハルルト共ニ之ニ関スル評論報道毎日新聞紙上ヲ賑ハスニ至レリ而シテ四月二十六日右条約及ヒ其付属公文発表セララルヤ更ニ各方面ノ注意深キ批評ヲ喚起シタルカ当時英國議會ニハ予算案ノ提出及ヒ其討議アリ將ニ全国的炭坑罷業勃発セムトスル矢先ナリシヲ以テ当国上下ノ注意ハ外交問題ヨリモ寧ロ内政問題ニ傾注サレタル觀アリタリ右条約ニ関シ今日迄政府筋ノ意見及ヒ一般輿論ハ大陸諸国ノ夫レニ比シ概ネ穩健ニシテ独逸ノ立場ニ同情ヲ表スルト共ニ条約本文ノ慎重ナル研究ト事態ノ發展トヲ俟チテ徐ロニ善処セムトスルニ在ルカ如シ

今右一般言論ヲ概観スレハ左ノ如シ

一、政府筋ノ見解

四月二十三日付往信公第二二八号報告ノ通四月二十一日下院ニ於テ英外相ハ「ボンソンビー」氏ノ質問ニ応シ本件条約ハ未タ締結セラレス又余ハ未タ其ノ条約ノ原文ヲ見サルモ独逸政府カ同条約ハ「ロカルノ」諸条約若クハ連盟規約ニ何等抵触スルモノニ非ストノ確言ヲ与ヘタルニ鑑ミ本条約カ完全ニコノ確言ヲ満足セシムルモノナル限り余ハ何等之ニ反対スル理由ヲ見ス尚此ノ意見ハ普通ノ外交手段ニ依リ「ロカルノ」諸条約締結ノ通報シタリト答ヘタルカ次テ右条約締結ノ後四月二十八日ノ下院ニ於テ英外相ハ議員「ウエツヂウッド」大佐ノ質問ニ答ヘテ同様ノ趣旨ヲ繰返シ且英國政府ハ独逸政府ノ前記確言ヲ特ニ重視スル旨独逸政府ニ申入レタルコト本件条約ノ本文及ヒ其付属公文ヲ篤ト考究シタル上ニ非サレハ意見ノ発表ヲ為スヲ好マサルコト並独逸政府ノ前記確言アル以上更ニ意見ノ申入ヲ為ス必要ナク又何人ヨリモ之ヲ要求セラレサルコトヲ述ヘタリ

尚本件新条約解釈ニ関スル所謂「ベネシユ」氏ノ対独質問(其内容ハ直接關係ノ帝國公館ノ報告ニ譲ル)ナルモ



ノニ付当国諸新聞ノ報スル処ニ依レハ右ハ「ロカルノ」条約締結國中ノアル国ヨリ智恵古国政府ノ意見ヲ叩カレタル結果(一説ニハ「ベネシユ」氏ト在「プラーグ」英國公使「サー・ジョージ・クラーク」トノ会談ニ初マルト云フ)「ベネシユ」氏ヨリ其意見ヲ草シテ英、仏ヲ初メ「ロカルノ」条約諸国ニ提示シ次テ口頭ヲ以テ「ベネシユ」氏ヨリ在「プラーグ」独逸公使ニ通知シタルモノナルカ如ク又英外相ハ駐英独逸大使トモ条約締結前ニ於テ右「ベネシユ」氏ノ質問ノ如キ新条約解釈問題ヲ論シタリト伝ヘラル本問題ニ関連シ仏国一部ノ輿論ニテハ独逸ノ本条約締結ニ対シ連合的の反對運動ヲ起サムトシタル「ベネシユ」氏ノ努力ヲ水泡ニ帰セシメタルハ英國政府ナリト評シツツアル趣ナルカ当国ニ於テハ四月二十八日ノ下院ニ於ケル前記質問応答ノ際「ウエツデウッド」大佐ヨリ「ロカルノ」条約諸国ハ連盟規約第十六条ノ解釈上將來負フヘキ義務ト牴触スルカ如キ中立義務ヲ露国ニ対シテ負担セサル様独逸ニ要求スル權利アリト「ベネシユ」氏ノ意見ニ英國政府ニ於テ同意シ居レリヤト質問シタルニ対シ英外相ハ英國政府ハ本条約ニ関シ独逸政府

ニ対シ何国トモ共同シテ意見ノ申入ヲ為シタルコトナク又「ウエツデウッド」大佐ノ言フ所ノ「ベネシユ」氏カ独逸ニ送リタリト云フ本条約ニ関スル覺書若クハ会见録ナルモノアルコトハ承知セスト答ヘタリ  
尚英外相ハ四月二十六日倫敦ニ於テ催サレタル英國諸市ニ存在スル英仏協会ノ會議ノ昼餐会ニ於テ「新諸条約ハ之ヲ注視スル必要アルハ勿論ナルモ嫉妬若クハ猜疑ヲ以テ視ルコトハ甚シキ誤ナリ其目的カ當事国間ノ平和ノ維持ニアリテ第三国ニ対シ侵略的ナラス且國際連盟ニ対スル吾人ノ義務ト牴触セサルモノナル限リ旧來ノ友誼ヲ暖メ又旧敵国トノ友好關係ヲ恢復セムトスル企テヲ歡迎スルモノナルコトヲ英國政府ノ名ニ於テ声明ス」ト演說セリ

二、一般輿論

露独条約成立ニ関スル英國諸新聞ノ論評ヲ摘記スレハ大要左ノ如シ

(イ)新条約及ヒ其付属公文ハ其条文及ヒ字句ノ上ニ於テ何等連盟規約及ヒ「ロカルノ」諸条約ト牴触スルモノニ非ス右ハ外見上確カニ國際連盟ニ対スル忠誠ト一致ス

ル取極ニシテ独逸ハ連盟ニ加入セムトスル国家トシテ何等不都合ノ事ヲ為シタリト云フヘカラス(「マンチエスター・ガーディアン」「ウエストミンスター・ガゼット」「オブザーヴァ」「デイリー・テレグラフ」)  
(ロ)カカル条約ノ締結ハ其自身トシテ非難スヘキモノニ非スシテ独逸ハ何国ト之ヲ締結スルモ其自由ニシテ(「タイムズ」)又独逸ハコノ自由並ニ大國トシテノ精神の平等及其地位ヲ認メラルルニ非サレハ連盟ニ加入セストノ意味ヲコノ条約ニ依リ表示セルモノナリ(「オブザーヴァ」)

(ハ)然ルニ今日大陸諸国例ヘハ仏國ニ於テ理事会構成問題ニ関スル理事会特別委員會開催ニ先チ新条約ノ惹起シタル新事態ニ鑑ミ右条約中意味曖昧ノ点ニ付独逸カ満足ヲ与フルニ非サレハ之ヲ連盟ニ加入セシムヘカラスト論シ或ハ之ニ関連シ理事会決議ノ全会一致ノ原則ヲ廢棄スヘシトノ説ヲナスモノアリ又駐仏羅馬尼公使ハ「マタン」記者ニ「余ハ新条約ノ本文ヲ見ルノ必要ナシ何トナレハ明文ノ有無ニ拘ラス同条約ノ主要目的ハ平和諸条約ニヨリテ規定セラレタル國境ヲ脅威セント

スルモノナレハナリ」ト語リタルカ如キハ甚タ遺憾ト謂フヘク此ノ如キ危惧ノ念コソ去三月ノ失敗ヲ招キ又來ル九月ノ連盟總會ニ新難關ヲ形成セムトスルモノニシテコノ危惧ノ念瀾漫スレハ欧州ハ再ヒ争鬪の同盟ノ旧式外交ノ巷トナルノ外ナク英國ノ今後連盟ニ於ケル態度カ独逸ノ連盟加入ヲ第一ノ目的トシ又理事会ノ全会一致ノ原則ヲ固持セムトスルモノ(往電第六九号「セシル」卿演說參照)ナルニ鑑ミ來ル九月ニ於ケル英國ノ立場ハ甚タ重要且困難ノモノトナルヘシ(「ガーディアン」「ガゼット」)

(ニ)右条約ハ他ノ諸国ノ之ニ対スル敵意非難サヘ無ケレハ「ロカルノ」諸条約カ露国ニ敵対スル目的ヲ有スルモノニ非スシテ西欧ノ保障ニアル限リコノ際「ロカルノ」条約ノ一締約國カ露国トカカル關係ニ入ルコトハ連盟ニ対スル脅威ニ非スシテ却ツテ其援助トナルヘク又独逸ノ連盟加入後ニ於テ將來露國ノ連盟加入ノ手引トナリ甚タ利益ナリトセサルヘカラス(「ガーディアン」「ガゼット」「オブザーヴァ」)

(ハ)然レトモ独逸ノ本条約締結ノ動機ハ去ル三月ノ連盟加

入失敗ノ間接ノ結果トシテ促進セラレタルモノト見ルハ蓋シ幾分ノ真理アルヘシ即チ「ロカルノ」条約ヲ成立セシメタル独逸ノ民主派ニ対スル反動派ノ独逸提携策カ幾分復活シタルモノト云フヘク（「デイリー・クロニクル」）「ガーディアン」其他）又独逸国会外交委員会ニ於テハ「ロカルノ」条約問題ニ付意見分裂シ居リタルニ拘ラス各政党代表者カ今回ノ新条約ニ付テハ全会一致ニテ之ヲ是認シタルハ注意ニ値スヘシ（「タイムス」）

(K)問題ハ右条約ノ法文上ハ別トシテ欧州ノ政局ハ本条約ニ依リ「ロカルノ」ニ於テ予定セラレタル形勢ヨリ側道ニ反シタル兆候アリ既ニ「ロカルノ」条約以後波蘭トハ露国トノ条約締結ノ企ニ失敗シタルモ最近羅馬尼トノ間ノ同盟条約ヲ改定シ露国モ亦「リスアニア」ト条約ヲ締結セムトシツツアリ斯クノ如ク東欧州ニハ新事態発生シ又独逸カ新条約ニ依リ「ロカルノ」条約ニ依リ新義務ヲラパロ条約ノ夫レト調節スル必要ヲ発見シタリトセハ西歐諸国亦如何ナル程度迄「ロカルノ」当時ノ意見ヲコノ新タニ変化シツツアル事態ニ適

ヲ有スル条約ヲ以テ一層広汎ナル範圍ノ政治的条約ノ基礎トナスト云フハ其理由必スシモ明白ナラス故ニ吾人ハ「ラパロ」条約ハ其後ニ於テ右以上ニ何等カ広汎ナル約束ヲ含ムモノトナラサリシヤ又如何ナル根拠ニ依リ「チチェリン」ハ客年独逸ノ連盟加入ニ強硬ニ反対シタリヤト質問セサルヲ得ス今日右新条約ニ何等付帯ノ秘密条項ナキコトヲ容認ストスルモ今ヤ独逸政府カ「ラパロ」条約ハ其發表セラレタル条約以外ニ政治的性質ノ義務ヲ含メルモノナリヤ否ヤヲ明白ニ声明スヘキ時ハ来レリ而シテ独逸政府ノコノ点ニ関スル説明ナキ限り本条ハ意味不明瞭タルヲ免レス（「タイムス」）「デイリー・クロニクル」

二、条約第二条ハ自己ノ平和の態度ニモ拘ラス締約國中ノ孰レカ一國カ攻撃セラレタル場合ニ他ノ一國ニ中立義務アルコトヲ規定シ居ルモ本条ハ最モ有リ得ヘカラサル事態（殊ニ露西亜ニ対スル武力的攻撃）ヲ予想セルモノナルカ故ニ實際適用セラルヘキ場合アルヘシトハ思ハレス（「タイムス」）

三、第三条ニ於テモ亦其ノ予想スル所ノ締約國中ノ一

応セシムル必要アリヤヲ考慮セサルヘカラス（「タイムス」）

尚独露ノ窮極の提携ハ種々ノ理由ニ依リ七年前ノ「ヴェルサイユ」条約締結以來逆睹サレシ所ニシテ国際連盟成功セハ今後大戦ナカルヘキモ若シ連盟失敗セハ独露ハ一致ノ態度ヲ執ルコト明カナルヘク又独逸ノ連盟加入後ハ独逸ハ「ヴェルサイユ」条約ノ改訂ヲ要求スルト共ニ一方諸種ノ問題ニ付露国ノ代言者トナルヘシ故ニ今日英、仏兩國ニシテ独逸ノ例ニ倣ヒ露国トノ間ニ直接ノ諸取極ヲ為スニ非サレハ今後七年ノ間ニ過去七年間ニ於ケルヨリ以上ニ外交的地盤ハ粉碎セラルヘシ（「オブザーヴァー」）

(L)条約本文ニ関スル批評

一、条約第一条ハ「独露間關係ノ基礎ハ「ラパロ」条約ニ存ス」トアルモ「ラパロ」条約ノ發表セラレタル部分ハ簡單ニシテ其内容ハ「プレスト・レトヴスク」条約ニヨリ既ニ設定セラレタル兩國外交關係ノ維持並ニ財政的要求ノ相互拋棄ヲ約セルモノニ外ナラス從テ「ラパロ」条約ノ如キ主トシテ經濟的性質

方（特ニ露西亜）ニ対スル經濟的並ニ財政的「ポイコット」連合ノ形成サルルカ如キコトハ極メテ茫漠タル仮定ニシテ之ニ反シテ明瞭ナルハ露国カ独逸ヲ含ム他ノ諸国ニ於ケル經濟組織ニ對シ現在維持シ居ル經濟的並財政的「ポイコット」ノ存在ナリ（「タイムス」）

四、独逸ノ對露公文中第三節ノ趣旨ハ独逸カ新条約ニ依リ常ニ露国ノ利益ノタメ其正邪如何ヲ問ハス拒否權ヲ行フトノ約束ヲ意味スルモノナリヤ否ヤノ疑問アリ（「デイリー・クロニクル」）又露国ハ是等ヨリ常ニ独逸カ露国ノ反對者ニ与セサルモノナルコトヲ期待シ得ヘシ故ニ連盟ノ一員ノ地位カ此ノ如キ予断偏見ニヨリ条件付ケラルルコトハ連盟ノタメ望マシカラス（「テレグラフ」）若シ右ノ如キ条約上ノ拘束力ナシトセハ新条約其ノモノハ無意味トナルヘク又例ヘハ三国協商ノ如キ表面上拘束力弱キ条約カ偉大ナル結合ノ効果ヲ現ハシタルカ如キ事例ニ鑑ミ本条約ハ大ニ研究ノ必要アリ（「デイリー・クロニクル」）

五、独逸ノ対露公文第四節ニ依レハ露独兩國ハ仲裁裁判所ヲ設定セムトスル意思アルカ如キモ若シ右裁判所ノ決定カ連盟若クハ其指導ノ下ニ与ヘラレタル仲裁判決又ハ「ロカルノ」条約付属ノ独波仲裁条約ノ規定ニヨリ与ヘラレタル仲裁判決ト抵触スル時ハ独逸ハ其ノ孰レノ判決ヲ受諾セムトスルモノナリヤ疑問ナキヲ得ス（「テレグラフ」）

三五六 五月三十一日 在独国伊藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛

独ソ新条約ノ成立及ビ右派新聞論調報告ノ件  
本第一三七号 (六月二十八日接受)

大正十五年五月三十一日

在独

臨時代理大使 伊藤 述史(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

独露新条約ノ成立及右派新聞論調ニ関スル件

四月中旬独露新条約成立説カ一頻リ内外新聞ヲ賑シタル頗末ハ既報ノ通ナルカ其後「チェッコ・スロヴァキア」外相

故ニ之ヲ伯林条約ト命名スヘキ旨並之カ成立ノ経過及内容ニ関シ詳細説明シタルモノノ如ク今之ヲ当地新聞ノ報道ニヨリ綜合スルニ左ノ如シ

一、本件交渉ノ経過ハ略前信所報ノ通り尚之ヲ補足スルニ「チチェリン」カ客年十月来伯當時連盟ヲ以テ反露同盟ナリト危惧シ容易ニ独逸側ノ説明ノミニテ納得セザリシカ引續キ巴里訪問ニヨリ仏国モ亦独逸側同様ノ解釈ナルニ稍安堵シ其後「ロカルノ」ニ於ケル独逸代表ノ行動及第十六条ニ関スル関係国声明ハ独露通商条約ノ成立及独逸政府ノ対露信用保証ト相俟ツテ露国側ノ独逸ニ対スル信頼益々加ハリ他方露国最近ノ経済的危機ハ益々新条約締結ニヨリ政府ノ対内的信任ヲ繋ク必要ニ逼ラレタル等旁客年十二月「ストレーゼマン」「チチェリン」ノ第二次非公式会谈後間モ無ク提出セラレタル独逸側草案ニ基キ交渉着々進捗シ本年二月既ニ兩者ノ主張略妥結ノ域ニ達シ僅ニ形式ノ問題ヲ殘スノミナルニ至レリ而シテ商議ハ三月寿府会議後再開セラレタルカ愈々成立ノ見極メ付キタルニ付「ラパロ」當時ノ誤解ヲ避クル為英仏伊米四国ニ内報シタルモノナリ然ルニ偶々「タイムズ」ノ尚早の素破抜ニヨリ寿府会議蹉跌ノ折

「ベネシニ」カ本条約カ連盟ノ明文及精神ニ違背スルコト無キヤ審議ヲ要スヘキ旨四箇条ノ質問書ヲ英仏等「ロカルノ」関係国ニ通告シタル旨伝ヘラルルヤ独逸新聞ハ異口同音「ベネシニ」ノ横槍ハ独逸国政ニ干渉シ国威ヲ毀損スルモノナリト憤慨シ更ニ「ベネシニ」機関紙「プラーガープレッセ」カ該質問書ハ發送前在「プラーグ」独逸公使ニ内示セラレタリト弁解シタルニ対シ「ストレーゼマン」御用紙「デークリツヒ・ルンドシャウ」ハ事前事後共ニ何等内報ニ接シタル事実ナキ旨反駁シタル以外本件露独条約ニ関スル報道殆ト閉息シタル觀アリシカ四月二十三日巴里及莫斯科電報中独露条約交渉ハ既ニ完了シ近々調印ノ運ナリト伝フルモノアリ越エテ翌二十四日朝刊亦均シク当地ヨリ出テタル同様ノ情報ヲ伝ヘタルヲ以テ或ハ「ラパロ」条約及昨年十月ノ通商条約ノ例ニヨリ突如成立スルニ非スヤト想像セラレタルカ果然独露新条約ハ同日午後二時当地ニ於テ独逸側外相「ストレーゼマン」露国側「クレステンスキ」大使ニヨリ調印セラレ二十六日參議院及議會兩外交委員会ヲ通過シ二十七日之カ公表ヲ見ルニ至レリ

右ニ関シ政府ハ半官的ニ本件条約ハ伯林ニ於テ成立セルカ柄「ロカルノ」關係国民ニ面白カラサル印象ヲ与フルノ結果トナリ独逸政府ハ不尠当惑シタルカ此際速ニ本条約ヲ締結公表シテ内外ノ疑惑ヲ解クノ愈々得策ナルヲ認メ他方露国政府亦前記内政の事情ニヨリ一層成立ヲ急キ四月二十二日当地露国大使ノ許ニ全權委任状到着ト共ニ急遽二十四日調印ノ運ニ至リ從テ之ヲ事前ニ兩院外交委員會ニ諮議スルノ違無カリシモノナリト云フ末段特ニ社会民主党其ノ他政府ノ秘密政策攻撃ニ対スル弁明ナリト察セラル

二、次ニ本条約ノ内容ニ関シ説明シテ曰ク本条約ノ締結ハ独逸存立上ノ必要ニ基キ單ニ露国ノ要求ニ追隨シタル結果ニ非ス即チ「ラパロ」条約カ相互賠償權ノ拋棄ニヨリ兩國經濟關係ノ基礎ヲ確立シタルニ対シ本条約ハ政治關係ノ基礎ヲ確保シタルニ過キス又本文及付属交換公文以外何等秘密事項ヲ含ムモノニ非ス更ニ(甲)本条約ノ規定自体ニ関シ(一)第一条兩國共通問題ニ関スル相互ノ友誼の接觸ハ前文ニ所謂一般平和ノ維持及独逸ノ連盟加入ヲ前提トスルコト勿論ナリ又(二)本条約ノ骨子タル第二条第三条軍事的及經濟的中立條款ニ関シテモ(イ)独逸ハ露国カ被侵略国タル場合ニノミ中立義務ヲ負ヒ反之(ロ)露国カ侵略国タル場合ニハ独逸ハ中

立義務無キノミナラス被侵略国ヲ援助シテ軍事的及経済的  
 對露共同制裁ニ参加スルコトモ得ヘキ理ナリ尤モ独逸ノ眼  
 中唯自国経済ノ復興アル今日出来得ル限リ此種制裁ニ参加  
 スルヲ欲セサルコト勿論ニシテ殊ニ第三条ノ規定ハ経済的  
 制裁力制裁国ニ對シ被制裁国同様ノ損害ヲ及ホスモノナル  
 ニ付成ルヘク之ヲ避クヘシトノ独逸本来ノ希望ニ基クモノ  
 ナリト云フ又(乙)付屬交換公文ハ固ヨリ条約ト一体ニシテ  
 「ロカルノ」条約連盟及本条約相互ノ關係ヲ調節シ特ニ露  
 国側ノ独逸西方政策ニ對スル杞憂ヲ一掃スルノ目的ニ出テ  
 即チ(一)第一項ハ本条約第一条相互接觸カ一般平和ノ維持ニ  
 貢獻セムトスル兩國ノ要望ニ基クコト(二)第二項ハ独逸ノ連  
 盟政策ニ関シ即チ露国ハ独逸ノ連盟加入カ何等独露親交ヲ  
 阻害スルモノニ非ス從テ爾後独逸ノ連盟政策ニ干渉セサル  
 コトヲ確認シタルモノニシテ換言セハ露国ハ連盟カ平和和維  
 持ノ機關ナリトノ独逸側主張ヲ承認シ尠クトモ露国政府ノ  
 関スル限リ連盟ハ英国ノ反露同盟ナリト非議スルヲ得サル  
 ニ至レリ將又實際連盟カ反露的ナラハ独逸ハ最初ヨリ之ニ  
 加入ヲ希望セサルヘク且連盟国自身亦連盟ハ平和的ニシテ  
 何等反露的目的ヲ有スルニ非サル旨屢次保証シタルニ鑑ミ

独逸外交ノ根本方針タル東西和平政策実行ノ一部トシテ  
 「ラパロ」及「ロカルノ」兩条約ノ調和ヲ図リ東西ノ仲介  
 者トシテ兩者ノ和協實現ニ努メ同時ニ独露ノ自然的傳統的  
 親善ヲ暖メ以テ独逸並欧州ノ平和及復興ニ貢獻セムトスル  
 目的ヲ有スルニ外ナラストシ尚本条約ハ憲法上必シモ議會  
 ノ協賛ヲ要セサルニ付之ヲ議會ニ上程スヘキヤ否未定ナリ  
 ト付言セリ

次ニ本条約成立ニ對スル輿論ノ趨向ヲ觀ルニ曩ニ本条約成  
 立説カ如何ニ独逸各界ノ人氣ニ投シタルカハ既報ノ通ナル  
 カ其ノ後巴威<sup>編輯注</sup>首相「ヘルト」カ四月二十五日「レーゲン  
 スブルグ」ニ於ケル巴威国民党支部会ニ於テ政府ノ「ロカ  
 ルノ」及連盟政策ヲ攻撃シテ物議ヲ醸シ從テ參議院外交委  
 員会ニ於テ巴威代表カ本条約ノ連盟加入ヲ前提トスルヲ理  
 由トシテ反對シタルノミニテ議會外交委員會ニ於テハ共產  
 党ヲモ加ヘ會テ前例ナキ全会一致ヲ以テ可決セラレ從テ独  
 逸新聞亦政府系ハ勿論左右兩系ニ至ル迄夫々別個ノ見地ヨ  
 リ新条約賛成論ヲ唱ヘタリ但本条約ハ政府既定方針ノ遂行  
 ニシテ独逸外交政策ニ何等ノ變更ヲ齎スモノニ非スト為ス  
 ニ一致シ從テ本条約締結ニヨリ「ロカルノ」派ハ勿論反對

本項独逸側聲明ハ何等連盟ノ理想ニ悖戾スルモノニ非ス(三)  
 第三項ハ特ニ連盟規約第十六条及第十七条ニ對スル露国及  
 「ロカルノ」国双方ノ不安ヲ一掃セムト期シ即チ本条ニ関  
 スル「ロカルノ」聲明ノ範圍内ニ於テ一方独逸ハ露国カ侵  
 略国タル場合反露行為ニ参加スヘキ旨明確ニ保証スルト同  
 時ニ他方連盟理事会ノ決議カ全会一致ヲ要スルニ鑑ミ露国  
 カ侵略国ナリヤ否ヲ決定スル場合必ス独逸ノ同意ヲ要シ且  
 侵略国ノ定義ニ関シ明確ナル規定ヲ欠ク今日独逸亦他ノ理  
 事国同様自己ノ裁量ニヨリ之ヲ決定シ得ヘキ旨独立国タル  
 独逸当然ノ權利ヲ聲明シタルニ止マリ英国側亦從來之ヲ主  
 張シ來レルニ鑑ミ何等連盟規約ニ違反セサルコト明白ナリ  
 況ヤ「チェッコ・スロヴァキア」カ連盟国ナルニ拘ラス既  
 二一九二二年露国ト無制限中立条約ヲ締結シタル前例アル  
 ニ鑑ミ連盟側カ纒ニ制限中立条約タル本条約ニ對シ疑惑ヲ  
 懷クカ如キハ全然其ノ理由無キモノナリ尚(四)第四項ニ於テ  
 露国カ將來仲裁条約締結ニ同意シタルハ露国カ從來仲裁裁  
 判ヲ以テ資本主義国ノ慣用手段ナリトシテ排斥シ來レルニ  
 鑑ミ注目スヘキ變遷ナリ云々

要之独逸ノ関スル限リ本条約モ亦政府ノ屢次聲明セル通り  
 党亦何等現政府ニ對スル態度ヲ改ムヘキ理由無キ旨付言シ  
 又与党系ハ何レモ新条約ハ憲法上其ノ必要無シトスルモ国  
 内反對党ノ氣勢ヲ緩和シ他方外国側疑惑ヲ解ク為之ヲ議會  
 ニ付議スヘシト懇願セリ尚本条約成立前後ノ各紙論調ヲ一  
 瞥スルニ左ノ如シ  
 甲「ロカルノ」派

一、政府与党中「ストレーゼマン」ヲ首班トスル国民党系  
 新聞ハ何レモ得々タルモノノ如ク「ドイッチ・アルゲマイ  
 ネ」紙(四月二十七日)ハ本条約ニ對スル各政党一致ノ態  
 度ニヨリ独逸ノ國際的地位頓ニ向上セリト揚言シ又「ケル  
 ニッシ」紙(四月二十五日)ハ英国新聞カ独露条約ニヨリ  
 國際形勢ノ一變ヲ來スヘシト説ケルカ之レ独逸カ他国外交  
 ノ客体ヨリ自主外交ニ復帰シ国力相当ノ國際的地位ヲ恢復  
 シタルヲ意味スルニ於テハ一面ノ真理アリト誇リ將又独逸  
 外交ノ理想タル真正ノ平和實現ニハ武力ヲ要セス妥協政策  
 ノミニテ足レリト嘯ケルハ恰モ独逸戰後ノ濡手ニ粟の外交  
 ノ真諦ヲ説キ得テ妙ナリト云フ可ク尚本条約成立ノ時機ヲ  
 得ストノ連盟国側非難ニ對シ「ストレーゼマン」ノ御用紙  
 「デーグリッヒ・ルンドシャウ」ニ至ル迄飯ニ本条約カ連

盟側希望ノ如ク独逸ノ連盟加入後成立スルコト望マシトスルモ独逸ノ連盟ニ加入シ得サルハ独逸ノ責任ニ非サルニアラスヤト放言セリ

中央党「ゲルマニヤ」(四月二十四日及二十七日)ハ英仏智波及波羅の諸国皆露国ニ接近セント競ヘルハ是等諸国亦露国現在ノ内政困難ニ拘ラス未タ現支配者ヲ瀕死ノ重態ニ在リト看做ササル証拠ナリ從テ独逸亦是等諸国ニ倣ヒテ露国ニ接近スルハ当然ノ事理ナリト弁シ尤其ノ効果如何ニ至リテハ固ヨリ将来ノ發展ニ俟ツヘシト雖モ「ラパロ」以上ノ効果ハ期待シ難ク殊ニ一部論者ノ如ク露国共產主義者ト深入スルハ主義上危険ナルノミナラス独逸外交ノ終始一貫性ヲ破リ世界ニ信ヲ失シテ戰前外交ノ轍ヲ覆ムノ惧アリ独逸外交ノ基調ハ飽ク迄「ロカルノ」即チ西方諸国トノ妥協了解ナラサルヘカラスト警告セリ

次ニ民主党系「ベルゼン・クーリエ」「フオッシツシエ」(四月二十七日)「ベルリーナー・ターゲブラット」(四月三十日)ハ略同趣旨ヲ以テ一般的且不完全ナル「ヴェルサイユ」条約及連盟規約ハ早晚特別条約ヲ以テ補充ヲ要スルモノナリ「ロカルノ」ハ勿論伯林条約亦右補充以外何等他

意アルモノニ非スト為シ就中「ターゲブラット」ハ經濟上東西兩欧州ニシテ協力セザランカ欧州ハ亜細亞諸国ニ脅威セラルヘシト説ケルハ独逸輿論カ從來米國ノ經濟的圧迫ニ對抗スル為欧州ノ團結ヲ主張シ居ルニ對シ聊カ奇異ノ感無キ能ハス最後ニ「フランクフルター」紙ハ本条約ハ明文自体ヨリモ言外ノ意義重大ニシテ殊ニ第一条ノ規定ハ一般修交ノ範圍ハ勿論所謂東西ノ橋渡以上ニ出テタルヲ示シ之レ露国カ欧州諸国カ他ヲ觀ル余裕無キニ乘シ隣邦ニ對シ逐次「ロカルノ」類似ノ平和的攻勢ニ出テ其ノ第一歩トシテ独逸圧迫ニ成功シタル証左ナリト揣摩シ尚本条約ノ明文固ヨリ一点非議ノ余地無キモ明ニ露国ニ迎合シタル交換公文第三項ノ如キ果シテ連盟国側ノ疑心ヲ封シ得ルヤ否疑問ニシテ「ベネシユ」質問書ノ如キ正ニ其ノ前兆ナルヘク独逸連盟加入ノ前途愈々多事ナルニ非スヤト懸念セリ

二、社会民主党機關紙「フオールエルツ」カ曩ニ政府ノ秘密政策ニ憤慨セルハ既報ノ通ナルカ其後政府ノ慰撫策成功セルモノノ如ク外交委員會委員ニシテ同党随一ノ外交通タル「ブライトシャイト」ハ本条約公表ニ先ツ四月二十五日同紙ニ於テ条約ノ精確ナル内容ヲ引用シ之ニ對シ何等異議

ヲ唱ヘサルノミナラス露国カ漸次不当ノ要求ヲ讓歩シ殊ニ独逸ノ連盟政策ニ對スル故障ヲ撤回シ剩ヘ仲裁条約ノ締結ニ同意シタルハ露国モ亦我党ノ連盟理想ニ接近シ来レル証左ナリト我田引水シ要之本条約ハ社会民主党既定ノ方針ヲ確認シタルニ過キササルモノナルカ故ニ当然之ニ賛成スルヲ得ヘシト説キ次イテ公表ノ当日同紙ハ略同様ノ論旨ヲ以テ露国カ連盟理事国タルヘキ独逸ト本条約ヲ締結セル限り爾後連盟攻撃ハ自家撞着ナリト述ヘ尚社会民主党ハ独逸ノ連盟加入及「ロカルノ」条約実施ヲ条件トシテ本条約ニ賛成シ同時ニ成ルヘク速ニ「ロカルノ」実施ノ障礙除去ニ努メ真ニ東西ノ均勢ヲ維持シ兩者ノ仲介者タル使命ヲ全クスヘシト結論セリ

乙、「ロカルノ」反対派

一、右党系ハ後述極端派ヲ除キ多数派「クロイツ」紙「ロカール・アンツァイガー」「ターク」「ドイッチェ・ターゲスツァイトング」(各四月二十七日)ハ何レモ本条約カ依然トシテ連盟及「ロカルノ」政策ニ基キ殊ニ第十六条ニ關スル曖昧ナル「ロカルノ」国声明ヲ引用シテ満足セル等根本ニ於テ全然異ナル見地ニ立テルモノナリト雖政府カ独逸現

在ノ国情ノ下ニ出来得ル限り行動ノ自由ヲ留保セントスル勞ヲ多トセサルヘカラスト為スニ一致シ尚「ロカール・アンツァイガー」ハ本条約ハ独逸カ西方ノ願使ニ甘ニスルモノニ非ストノ「デモンストレーション」ノ価値十分ナルカ政府当局殊ニ「ストレーゼマン」カ誤レル「ロカルノ」政策固執ニヨリ全然非難ノ余地ナキ專ラ有益ナル本条約ヲ締結スルモ尚且欣然タル能ハサルヲ惜ムト頗ル満足シ又本条約ハ其ノ内容ヨリモ締結ノ動機ニ於テ即チ政府屢次ノ保証ニ拘ラス寿府蹉跌後政府自身連盟及「ロカルノ」政策ニ對シ懷疑ヲ加ヘ来レル徵候ナリト誘ヒ又本紙ト全然同系ノ「ターク」亦本条約ハ「ロカルノ」中毒ニ對スル解毒劑トシテ將又独逸外交ノ安全弁トシテノ効果十分ニシテ現政府ノ方針根本ニ於テ誤レリト雖本条約締結ノ結果ニ於テ成功ナリト賞揚セリ

次ニ極端派「ドイッチェ・ツァイトング」ハ四月二十七日朝刊ニ於テ本条約カ内容貧弱且曖昧ニシテ殊ニ「ストレーゼマン」自身尚快答ヲ与ヘ得サル第十六条声明引用ノ如キハ寸毫ノ価値無ク吾人ハ姑ク本条約ノ功過如何ヲ論セス只管本条約カ何等「ロカルノ」及連盟政策拋棄ヲ意味スルモ

ノニ非サルヲ遺憾トスル旨述べ次イテ同日夕刊ニ於テ代議士「フオン・フライターグ・ローリンググホーフエン」ハ伯林条約カ「ロカルノ」政策ノ抛棄ニ非サルノミナラス却リテ之ヲ確認シタルモノナルカ故ニ何等「ロカルノ」政策ノ義務負担ヲ軽減スルモノニアラス然共独逸カ連合國ノ奴隸ニ非ス又自由意思ニ基カスシテ反露行為ニ参加ヲ強制セラルルモノニ非サルハ勿論否進ンテ露國親善策ヲ講スルノ意思アルヲ天下ニ表明セル点ニ於テ尠クトモ一改善タルヲ失ハサルカ故ニ吾人ハ姑ク既往ニ溯ラス独露親善ヲ危殆ナラシメサル為本条約ヲ甘受セサルヲ得スト為シ然共本条約ニヨリ独逸ノ露國ニ対シ負担スヘキ義務ノ重大ナルニ反シ露國ヨリ受クヘキ報償極メテ尠ク例ヘハ独逸カ仏波智等ヨリ攻撃セラルル場合露國ノ中立ヲ利益トスルハ単ニ波蘭ノ場合ノミナルカ今日ノ露波關係ヲ以テセハ此ノ如キ場合露國ハ必ス波蘭ノ背面ヲ突クカ尠クトモ自発的ニ中立スヘキヲ以テ本件独逸中立条約ハ寧ろ無用ノ長物ナリ反之連盟カ露國ヲ侵略國ト看做シ共同制裁ヲ加フル場合独逸ハ当然連盟規約ニヨリ之ニ参加スルノ義務アリ然ルニ露國カ逆ニ右共同制裁ヲ挑発ニ基カサル侵略ナリト認ムルニ於テハ独逸ハ独露

無稽ノ言トシテ看過シ能ハサルニ似タリ

三、終ニ共產黨機關紙「ローテ・フアーネ」(四月二十七日)ハ依然トシテ「ロカルノ」及連盟政策ヲ露國包圍政策ナリト信シ独逸「ブルジョア」政府ハ口ニ独露親善ヲ高唱シツツ僅ニ制限中立条約ヲ締結シタルニ過キサルニ鑑ミ依然トシテ英國隸屬政府ヲ改メス将来露國ニ対シ機ヲ見テ鬼面ヲ顯スハ必定ナリ反之勞農露國ハ建国以來平和政策ニ終始シ露國カ独逸「ブルジョア」政府ト本条約ヲ締結セル亦

条約ニヨル中立義務違反ニ陥ルカ如ク独逸ハ常ニ連盟側若クハ露國側何レカ一方ヨリ条約違反ヲ責メラレ理論上ハ兎モ角事實上連盟及独露關係ノ調節ヲ囫ルコト不可能ナルヘシト穿鑿セリ反之極右派國粹武斷系機關紙「ドイッチェ・ターゲブラット」ハ連合國政府ハ独露条約ノ成立ニ関シ努メテ平靜ヲ装フカ如キモ民論ハ漸次独露接近ノ恐れヘキヲ予感シ來レリ實際連合國ハ独露ノ接近否必然到來スヘキ独露同盟ニ対シ全然無力ナリ社会民主党ト雖共產黨ニ対スル党略上独露同盟ニ反対スルモノニシテ真意ハ寧ろ之ヲ希望セリ從テ独露同盟コソ独逸民論ニ合致シ独逸新外交ノ枢軸タルヘキモノニシテ唯之ニヨリテノミ欧州ノ經濟的意義的破綻ヲ助長スル「ロカルノ」化ヲ免ルルヲ得ヘシ而シテ連合國ニヨリ解体セラレタル独露塊洪勃諸國ニシテ再ヒ結合シ連合國側ニ當ランカ其ノ人口ニ於テ体力ニ於テ遙ニ優越セル前者ノ勝利ニ歸スルハ必然ナリト共產黨同様独露同盟論ヲ以テ威嚇セリ之レ独逸現在ノ國情ヨリシテ一片ノ遠吠ニ過キサルモ今尚戰敗ノ意義及國際道義ノ何タルヲ解セス依然トシテ体力武力一点張ニテ再挙ヲ図ラントスル一部独逸人ノ偽ラサル心底ヲ漏ラシタルモノトセハ必スシモ荒唐

其ノ平和政策ノ連続トシテ独逸勞働者ノ平和意思及其ノ社会主義露國ニ対スル同情ニ信賴シ之ト握手セムトスル希望ノ切ナル結果ナリト確信シ吾人ハ独逸「ブルジョア」ノ本条約違反ニ対スル保障者トシテ本条約ニ賛成スル旨述べ更ニ吾人ハ依然全力ヲ尽シテ独逸「ブルジョア」政府倒壊ヲ期スルコト勿論ニシテ真正ノ独露親善ハ独逸「プロレタリアト」カ独裁的政權ヲ把握シタルトキ始メテ可能ナリト結